

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

令和8年4月16日

文 教 委 員 会

# 速 報 版

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

午後1時28分開会

○石毛かずあき委員長 それでは、これより文教委員会を開会いたします。

————— ◇ —————

○石毛かずあき委員長 最初に、記録署名員を私から御指名をいたします。

しぶや委員、小林委員、どうかよろしく願います。

————— ◇ —————

○石毛かずあき委員長 次に、異動管理職の紹介があります。

まず、教育長から異動のあった部長級職員の御紹介をお願いいたします。

○教育長 私からは、4月1日付で異動があった文教委員会所管の部長級職員を紹介いたします。

吉尾文彦こども支援センターげんき所長です。こども家庭相談室長を兼務いたします。前任職は環境政策課長です。

私からの紹介は以上でございます。

○石毛かずあき委員長 続いて、教育指導部長から異動のあった所管の課長級職員の紹介をお願いいたします。

○教育指導部長 私から教育指導部内の異動があった課長級職員を紹介いたします。

神家満麦学校ICT推進課長です。前任職は高齢者地域包括ケア推進課はつらつ高齢者支援係長で、今回昇任です。

私からは以上でございます。

○石毛かずあき委員長 続きまして、学校運営部長から異動のあった所管の課長級職員の紹介をお願いいたします。

○学校運営部長 私からは、生涯学習振興公社内の異動があった課長級職員を紹介いたします。

飯塚諭涯学習振興公社学習事業部長です。前任職は西部福祉課長でございます。

以上で私からの紹介を終わります。

○石毛かずあき委員長 続きまして、子ども家庭部長から異動のあった所管の課長級の紹介をお願いいたします。

○子ども家庭部長 私からは、子ども家庭部内の異動があった課長級職員を紹介いたします。

樋口清二子ども政策課長です。前職は私立保育園課長です。

澤田好子ども施設指導・支援課長です。鹿浜子ども園長を兼務しております。

芝戸拓矢市立保育園課長です。前職は防災戦略課水害時避難担当係長で、今回昇任です。

眞鍋亜砂美幼稚園・地域保育課長です。前職は区議会事務局次長です。

以上で私からの紹介を終わります。

————— ◇ —————

○石毛かずあき委員長 続きまして、請願・陳情の審査に移ります。

まず、(1)5受理番号14を単独議題といたします。

前回は継続審査であります。

執行機関は何か変化はありますか。

○支援管理課長 特段変化はございません。

○石毛かずあき委員長 それでは、質疑に入ります。何か質疑はございますか。

○水野あゆみ委員 何点かだけ確認させていただきます。

医療的ケア児の増加傾向がある中で、この4月から4ケアの制限というのが撤廃されて、より多くの方、入園対象になったと思います。

4月から応募状況、入園状況というのはどうでしょうか。

○支援管理課長 保育園につきましては、指定園5

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

園で各2名のところ、10名の定員のところですね、現在6名の入所がございます。

4ケア以上のお子様については、小学校の方で1名、中心静脈栄養というケアの種類のお子様か1人入っています。

- 水野あゆみ委員 私が医療的ケア児の保育園受入れの状況を視察したときに、やはり近くからではなくて遠くから通わざるを得ない方がいらっしやいました。雨の日でもかっぱを着て、結構遠い距離を毎日送迎している状況があったのですが、定員10名のところ6名というのは分かるのですけれども、例えば5園のうち、そこに行きたいんだというときに、原則2名になってるので、入れない家庭というのは更に遠くの園に行かなきゃいけない状況になってるかなと思うのですが、そういった状況というのは把握しているのでしょうか。

- 支援管理課長 そういった状況は課題として捉えております。

ただ、配置している看護師の技術であるとか、研修等で上げておかないといけないということもございますので、今、5園の看護師については、医療的ケアの研修を十分行って、ケアを担当させていただいている者でございますので、今後、拡大していくとなると、また看護師のレベルアップを図らなきゃいけないと考えております。

- 水野あゆみ委員 安全に預かるというのが、命を預かるわけですから第一なんですけれども、やはり小・中学校では、どこ行ってもいいというような、自分の近くでも行けるという中で、保育園だけ、その決められた指定園でなきゃ駄目だよという制限があるので、どうしても遠くなってしまうかなというふうに思いますので、そのところもしっかり、課題と捉えていただいているので、進めていっていただきたいと思います。

また、保育受入れの周知もしっかりしていただきたいと思いますと思いますが、医療的ケア児のポータルサイト、私も数年前に立ち上げを訴えまし

て、現在、作成していただいているところですが、見たときに、この4ケアの制限が撤廃されたという内容が見受けられなかったもので、そういったところも、今まで入れなかった方が対象になるわけですから、しっかりとやっていただきたいと思いますが、この周知について現状と、また今後のところについてお伺いします。

- 支援管理課長 確かにポータルサイトを見ますと大変分かりづらいなという印象がございましたので、これについてはすぐ改善をさせていただきたいと思います。

引き続き、医療的ケアの入所、または入学等の周知をホームページ等も含めてさせていただきたいと思っております。

- 水野あゆみ委員 この医療的ケア児の保育受入れが始まったときに生まれた子どもが今回小学校に入学したということで、私もこれを訴え続けてきたのですが、そのときの御家庭もこの医療的ケア児の保育受入れというのがなかなか周知されてなくて、分からないというのが何年か続いたというふうに言っていましたので、しっかりと伝わるような周知をお願いしたいと思います。要望して終わります。

- 石毛かずあき委員長 他に質疑は。

- 小林ともよ委員 前回の委員会で、医療的ケア児のレスパイト事業、利用料の負担の軽減を求めたのですけれども、ほかの障がい児の放課後デイサービスなどの利用負担のことも取上げて、負担の軽減は一応検討するとしていますが、放課後デイの利用料と比較してでも、1時間当たりの利用料がやっぱり高いなというふうに感じます。レスパイト事業の利用時間、年間288時間まで拡大されています。まして、今、1か月に換算すると、平均で24時間利用できるという状況になっていますけれども、フルで利用すると、1か月当たり1万8,000円にもなるのですね。放課後デイの利用者と比べても利用料金が高くなっているの

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

が実態だと思うのです。物価の高騰などあって、一定の収入があっても家計としては大変だということで、お金の心配なく利用できるように、負担の軽減をやはり前向きに検討していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○障がい援護課長 小林委員から御指摘がありましたとおり、利用負担の部分、現時点では、ほかのサービスの均衡等含めて無償化というところはまだ現状は検討しておりませんが、今回、更新申請に合わせまして、利用者様の具体的な利用時間ですとか、負担に関する御感想とかも含めてアンケートを取ってますので、そのアンケートの結果等を含めて検討してまいりたいと思います。

○石毛かずあき委員長 他に質疑はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○石毛かずあき委員長 質疑なしと認めます。

次に、各会派からの意見を求めます。

○水野あゆみ委員 今までも区として提案してきたことすとか、しっかりと進めていただいていると思っております。これからも区民の御意見を反映しながら、しっかりと政策を前に進めていただきたいと思いますので、継続でお願いします。

○鹿浜昭委員 継続でお願いします。

○小林ともよ委員 採択でお願いします。

○中島こういちろう委員 継続でお願いします。

○石毛かずあき委員長 それでは、これより採決いたします。

本件は、継続審査とすることに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○石毛かずあき委員長 挙手多数であります。よって、継続審査と決定をいたしました。

次に、(2) 5受理番号15及び(3) 6受理番号3、以上2件を一括議題といたします。2件とも前回は継続審査であります。

また、報告事項の(4) 不登校支援ポータルサ

イトの更新について、(5) 自閉症・情緒障がい特別支援学級の検討状況について、(6) 知的固定学級の新設検討についてが本請願と関連しておりますので、併せて執行機関に説明を求めます。

○教育指導部長 文教委員会報告資料8ページをお開きください。

不登校支援ポータルサイトの更新についての御報告になります。

件名、所管部課名は記載のとおりでございます。

この間、様々な声をいただいておりますので、このポータルサイトの充実を図ってまいりました。

主な変更点、項番1でございますけれども、教育委員会以外の情報も掲載したりすとか、あと、(2)、(3)、PTAからの御意見を踏まえたものになりますが、トップページの情報を整理したり、温かみを感じられるイラストを加えたりということで、内容の充実を図っております。

項番2に、新規掲載情報項目をまとめてございます。こちらについては3月27日から公開しております。

項番4、周知方法ですけれども、C4Home & School等で定期的な配信を送ってまいります。

また、今後の方針でございますけれども、ポータルサイトの更なる充実を図るとともに、定期的な周知を図ってまいります。

○こども支援センターげんき所長 私からは、自閉症・情緒障がい特別支援学級の検討状況についてでございます。

所管部課名は記載のとおりでございます。

自閉症・情緒障がい特別支援学級の可否につきまして、足立区特別支援教育検討会における検討状況を報告するものでございます。令和7年度、2回検討会行ったところでございまして、中教審の野口晃菜氏を招聘しているところでございます。項番2の検討内容でございます。

(1) 11月に開かれました第1回の検討委員

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

会でございますが、中教審における次期学習指導要領の関する検討状況のところでございます。不登校など、多様な個性などを有する子どもがどの学校にも在籍しているということをご前提とする。また、多様性の包摂、また、特別支援教室においては、各教科の指導も★★になると、これが方向性が示されているというところでございます。また、足立区独自の強みなども示す必要があるのではないかとこのところでございます。

恐れ入ります、10ページ開いていただきまして、第2回の検討委員会のところでは足立区方式の強みを提示したところでございます。足立区では、他区よりも二、三倍の教員数を確保し、校内情緒を実現していくこと、あと、グラフに記載しておりますように、学校支援、行動観察など、他区よりも多い状況でございます。

また、このところ、情緒固定に関する意見でございます。場合によっては環境を分けてしまうと教員が不足になるのでは、あとは、子どもによっては自尊心の向上が期待されるであろうというところございました。

今後の方針でございますが、次期学習指導要領の方向性を注視しながら、足立方式のブラッシュアップも提案し、慎重に検討を重ねていきたいというところでございます。

続きまして、12ページ、知的固定学級の施設検討についてでございます。

所管部課名は記載のとおりでございます。

知的固定学級の学級数は充足しておりますが、地域偏在があり、令和8年4月に小学校3校及び中学校2校に新設したところございましたが、中央、東エリアには新設に至らなかったため、この令和9年度に、中央エリア、中島根小学校、そして東エリア、北三谷小学校に新設を検討しているところでございます。

項番2、中学校における固定学級につきましては、令和10年度以降に入級者数が増加すること

が見込まれますので、引き続き検討していきたいというところでございます。

3、その他のところでございます。地域偏在を加味しながら施設などを学校と交渉し、更に最寄りの学校以外も選択しやすい通級、付き添い費補助の周知を図ってまいりたいというところでございます。

○石毛かずあき委員長 それでは、質疑に移ります。

何か質疑はございますか。

○小林ともよ委員 ポータルサイトはかなり整理されて見やすくなって、どのような支援があるのかも分かりやすくなったと思います。更にサイトの周知の徹底もしていくこともお願いしたいと思っております。

それと、不登校の子を持つ保護者への支援ですけれども、今回、知的固定学級に通う生徒の保護者を対象に、通学付き添い費の補助が出るようになりました。不登校の児童・生徒、小学生の低学年になると、なかなか1人で行けないということもありますので、こういった方々も対象にすべきと思いますが、その点検討されていますでしょうか。

○教育相談課長 小林委員から決算特別委員会でも同様の御質問があったかと認識しております。近隣区もそれを受けて状況を調査してまいりましたが、通うお子さんですとか、あとは保護者に対しての交通費補助ですとか、そういった制度を実施しているところは確認できませんでしたので、引き続き状況を確認してまいりたいと思っております。

○小林ともよ委員 知的固定学級の方と同様に、まだ3か所しか受けられるところありませんので、それを拡大していくという方向であればいいのですけれども、それも場所も難しいかなと思いますので、是非、保護者に対しての補助も前向きに検討していただければと思います。

そして、国も小学校の給食の無償化実施という

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ことになりました。足立区にも補助金が入ってくるということで、それを利用している、やはり長期にわたって学校行けない子を持つ家庭へ給食費相当の補助を再度行っていくべきと求めたいと思いますが、いかがでしょうか。

- 学務課長 何度も御答弁差し上げているとおおり、不登校のお子様でも学校では給食を用意しているというようなところもありまして、御家庭で食べる分の補助というのは、今のところ区は考えていないというような状況でございます。
- 小林ともよ委員 何か月ももう不登校になってしまっているという子もいますので、そういった家庭に対して、ほかの自治体では不登校の子どもたちにもそういった補助を出しているということを進めてますから、ほかの自治体も参考に、是非、前向きに検討していただければと思います。

あと、自閉症・情緒障がい特別支援学級の検討についてですけれども、情緒固定の設置に関する意見でも、在籍することによって自尊感情や学習意欲を向上する効果があるとの意見があります。増加する不登校の児童・生徒の中にも情緒障がいのある子が一定数含まれていることも想定されています。また、通級で学んでいる子どもからも固定学級で学びたいと言っていたりとか、保護者が学ばせたいと言っている声がある中で、なかなかそれがかなっていないという話も聞いているのですね。固定級の設置も本来それぞれの学校に設置して、学区域内で学べることが求められる中で、それにもまだ時間がかかりそうだということもありますが、情緒固定も必要としている子どもがいます。1学年3クラス以下などになっている学校などあると思うのですけれども、不登校対策としても既に実施しているほかの自治体を参考に、情緒固定のモデル実施を始めるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

- 支援管理課長 自閉症・情緒障がいの固定学級については、いろいろ御意見がいただいているとこ

ろでございます。固定学級あることで、改善するお子様もいれば、普通学級に戻れないような状況になってしまう場合もあります。

次期学習指導要領も、今、通常学級に戻すというような動きになりそうだという意見も聞いておりますので、引き続き国の意見を注視しながら、こういった形が一番子どもたちにいいのか検討していきたいなと思っております。

- 小林ともよ委員 通級で通っている中では、通常の学級にいる場合に、やはり引け目を感じたりとか、授業についていけないという声があり、また、それが嫌でやっぱり学校に行きたくないというふうな子どもたちもいるという話は一定数入ってきておりますので、是非その辺も、不登校対策としても、情緒固定のモデル実施、是非、数校で構いませんので、実施していただきたいと思っております。

- 石毛かずあき委員長 他に質疑はございますか。
- 水野あゆみ委員 私からも何点か、不登校支援ポータルサイトについてもお伺いします。

本会議で、私、実施を提案いたしまして、ポータルサイトを立ち上げていただいたものでございますが、今回、中を見たのですけれども、チャレンジ学級や教育相談に通うと学校に登校したことになるのかというところがありますね。答えとして、各学校の裁量によりますというふうにご回答がでてきました。各教育相談係では毎月の通級状況を学校に報告していますということだったので、基本的には、チャレンジ学級に出席した場合、学校での出席というのはどのようになりますか。

- 教育相談課長 教育支援センターに通級しているお子さんにつきましては、毎月、通級状況については御報告してまして、各学校にはそれを出席扱いとするようお願いをしているところでございます。
- 水野あゆみ委員 チャレンジ学級に通級していただきながら出席にならないというケースがあるの

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

かなというふうに、私もポータルサイトのあれを読んだときにそういうふう感じてしまったので、是非、出席した場合には出席となりますぐらいに、しっかり誤解生じないように書いていただきたい、すごいミスリードになってしまうと思うので。そこは学校の判断で欠席にするなんていうことがあってはならないかなと思うので、その辺のところ、また直していただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

- 教育相談課長 そちらの記載が、恐らくかなり昔から同じ記載になっていまして、その間に各学校には足立区の欠席の取扱いのガイドラインも出しておりますので、今の学校にお願いしているガイドラインの内容をしっかりとホームページの方に修正させていただきたいと思います。
- 水野あゆみ委員 オンラインでの授業もそうなんですけれども、コロナのときは顔出さなくても出席になってたものが、コロナ明けると、今では顔出さないと出席にできないよというふうに言われたり、ただ、いろいろな状況があるので、やっぱりその子その子の状況に合わせた出席の取扱いというのをしっかりしていただきたいと思います。

もう1点、今回、小学校から中学校入学された御家庭なんですけど、やはり不登校ぎみで、フリースクールを検討したいということで相談がありました。フリースクールでの学習、またテストについて、しっかり中学校でも成績に反映してほしいということを入る中学校に相談されたときに、中学校側は最初やりますと言ってたから入学したのですが、入学してみると、やっぱりできませんという回答をされたということだったんですね。こういったことも、なぜ断られたのか私も詳しく聞けてはおりませんが、そうした学校の判断で、できませんよというふうな回答されたというのは、国のそういった考え方にも反しているのではないかなというふうに思いますが、教育委員会として

はどのように考えているのですか、この成績評価については。

- 不登校施策推進担当課長 不登校の児童・生徒がフリースクールに通っている場合とかなんですけども、しっかりとその頑張りというものを認めてあげるところが大切だと思います。国の方でも要件示されてますけれども、そういった要件満たされるようであれば、しっかりと成績評価の方に反映させるような形が望ましいというふうには考えております。
- 水野あゆみ委員 それが実際学校に伝わってるのかなという、ガイドラインで示してますよだけでは駄目だと思うので、しっかり働き掛けていっていただきたいと思うのですが、いかがですか。
- 不登校施策推進担当課長 国の示す指針といえますか要件につきましても、なかなか読み取りづらいというところがあるかと思います。まず区の方で、学校によって成績評価を反映させてる学校と反映できていない学校あるかと思しますので、まずそのような実態の把握をさせていただきたいと思います。そういった実態把握の中で、なぜできたのか、できないかというところを踏まえて、問題点の整理というところをまずは進めていきたいと考えております。
- 水野あゆみ委員 フリースクールの補助金も区としても東京都に上乗せで出してるわけですから、しっかり連携を図ってもらって、成績評価につながってるのかどうかというのは、本当に不登校施策推進課の方でしっかり押さえていっていただきたいと思いますし、また、学校が安易に断らないように、しっかりと働き掛けていっていただきたいと思います。これはオンライン授業についても同様に考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

その上でポータルサイトにもう一つあったんですけども、学校の定期考査、チャレンジ学級で受けられるのかという項目があるんですね。この

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

チャレンジ学級の指導時間内に受けることはできません。ただし、成績の取扱いは各学校に確認してくださいというふうに、ここもやっぱりなってしまうのです。フリースクールではなくて区がやってるチャレンジ学級、区がやってるものですら成績に反映できますとは書いていないのですよ。ここもやっぱり不安になってしまうというふうに思うので、もう少し、ミスリードにならないような、またそれを見て、保護者や学校がしっかり成績反映できる場合がありますと、そういうふうに思えるような書き方をしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○教育相談課長 区のホームページの記載が、こちらの意図するところとしましては、最終的な成績評価の決定権は校長にあるというようなことを、そういう制度を説明したという意図なので、学校任せにしているというような趣旨で書いたものではないのですけれども、そのように受け止められてしまいますと、親御さんや学習を頑張ってきているお子さんの意欲をそいでしまうことにもつながりますので、より保護者の方や子どもにも意欲を高めていけるような書き方にしていきたいと考えております。

○水野あゆみ委員 不登校でありながらもフリースクールとか頑張って通っている子たちが、成績表を見たときに、成績がつかなかったとか、こんなに頑張って通ったのに欠席だったとか、そういつて落ち込むようなことがないように、しっかりと子どもたちの思いをくんでいただいて、やっていただきたいなと思います。

この不登校ポータルサイトの中に、フリースクールどこがあるのかなと調べるときも、最短でも5回クリックしないと行き着かないんですね。私、分かっているから5回で済みますけれども、分かってない人はもう絶対5回では行き着かなくて、どこを見て、どこを見てないのかというのが、もうサイトの中で迷子になってしまいました、私も。

だから、やっぱり色分けであるとか、キーワード検索ができるようになるとか、もう少し、すごいいっぱい情報を網羅していただいているだけに、本当にどこに何があるのかというのが分かりにくくなっているので、まずは見出しだけでも項目ごとに色分けしてもらったり、あと、キーワード検索とか、もうちょっと使い勝手よくしていただきたいなと思いますが、いかがでしょうか。

○不登校施策推進担当課長 今回もPTAの方の御意見を踏まえまして、このポータルサイトを更新させていただきました。ただ、まだまだというところもあるかと思しますので、引き続き御意見を承りながら、よりよいポータルサイトを目指して取り組んでまいりたいと考えております。

○水野あゆみ委員 是非よろしく申し上げます。

今回、第十一中学校で始まったチャレンジ学級については掲載されてなかったように、私、見つけられなかったのですが、掲載はしていただいていたのでしょうか。

○不登校施策推進担当課長 第十一中学校のチャレンジクラスでございますけれども、まだ全区的に募集公開してないというところもございますので、まだホームページの方には掲載していない状況でございます。

今後、全区的に募集を掛ける際には、併せて不登校支援ポータルサイトの方にも御紹介をさせていただきたいと考えております。

○水野あゆみ委員 私もどこに書いてあるかなと一生懸命探したけれどもなかったもので、是非お願いしたいと思います。

あと、登校サポーターの件も少しお伺いしたいのですが、私も本会議で、会計年度の任用職員ありますが、登校サポーター週15時間までという規定があるのです。ただ、別室支援をしたりすると、とても15時間では足りないということがアンケート調査でも分かったという中で、いつ改善してくれるかなというふうに思っていたのです。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

が、やはり今年度も15時間以内ということでお達しがあったということでした。登校サポーターからは、是非、早いうちに改善してほしいという声もありました。

それから、せっかく仕事があると思ってその日を空けていても、支援する方が突然欠席になったりすると仕事自体がなくなってしまうということで、その方のお給料とか、そういったことにも反映してくる、出た分だけの実働の給料しか出ないということなので、そこは働き方としてもよくないのではないかと御意見いただいているのですが、この辺についてはしっかり早期の改善を求めたいと思いますが、どのような検討状況でしょうか。

○教育相談課長 まず1点目の勤務時間の拡大につきましては、今1人当たりの勤務時間、先ほどおっしゃっていた上限15時間をもう少し拡大できるように、庁内の手続進めております。令和9年度目途ということで考えてはおりますが、様々な条件がそろいましたら令和8年度途中からでも変えていけるように進めているところでございます。

もう一つ、児童が不在のときの勤務につきましては、別室にお子さんが不在の場合でも支援の質の向上に資するような教材研究ですとか、あとは支援記録の整理ですとか、職務の範囲を明確化した上で、予定どおりの勤務を継続していただく方向で業務の整理を進めてまいりたいと考えております。

○水野あゆみ委員 それを聞いて安心をいたしました。本当に早期にやっていただけるように要望いたします。

最後に、自閉症・情緒障がい学級の検討状況についてということで、私も令和6年度と令和7年度に本会議でも是非設置をしてほしいということで質問をさせていただいています。

その中で、23区中12区がもう既に実施をしているというところですから、後ろ向きではなく、

是非前向きに検討していただきたいと思います。

その中で、私も今年、当事者の方から相談を受けて、小学校に入学したものの、本当に学校に通えなくなる状況があって、本人は行きたいけれども行けない、学校にも入れなくなってしまったということで、夏休みぐらいから不登校になってしまった。不登校になってしまったので、ほかに通える居場所の支援を受けているというような、そういったお話を伺いました。やはりそうやって自閉症の子とか情緒障がいの子というのは不登校につながってしまうのだなというのは、他区の実施しているところでお話を伺っても、そのような傾向にあるというふうに思いました。

前回、質問をしたときに、自閉症ということで、特別支援教室、現在、全校で行っていただいておりますが、その中で、自閉症の診断を受けている児童というのが140名いて、中学校の生徒は40名いるということでありました。情緒障がいの傾向があるということで診断を受けてるお子さんは、児童20名、生徒が5名いらっしゃるということで調べていただいたのですけれども、この中で、不登校になってしまっているというか、そういう実態というのは把握できているのでしょうか。

○支援管理課長 大変申し訳ございませんが、情緒障がいの子と自閉症の子が、今の数が不登校につながってる数は捉えておりません。

○水野あゆみ委員 是非、不登校施策担当課と支援課と、しっかりと連携をして実態把握していただきたいなど。そういった原因で不登校になっているお子様もいると思いますので、実際にこのようにいらっしゃるの、そこは、是非こういった学級を設置することで改善できるのであれば、していく一つの検討材料になるかなというふうに思います。

学校の先生も、大変なことは何ですかということで業務内容の調査をしたときに、やはりこうい

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

った特性のある子どもたちの面倒を見るのが本当に大変というアンケートが出ましたので、そういったところも酌んでいただきながらしっかりと検討していただきたいと思います。いかがでしょうか。

○教育指導部長 先ほどのお話にあります登校サポーターに関連して、小学校版のSSRではありませんけれども、小学校の別室の充実も図っていきたいと思っております。そういった様々な場所を用意することで、そこであれば学校にいられるという子どもを少しでも増やしていきながら、並行して情緒固定学級をつくるのかどうか、作るすれば幾つなのか、その辺は並行して検討していきたいと考えてございます。

○水野あゆみ委員 ありがとうございます。

今、小学校の別室支援が15校できていないというふうにお伺いしていますので、SSRもちろんそうなんですけれども、それよりも人材不足もありますので、しっかりと子どもたちの居場所というのを確保していただきたいと思います。要望して終わります。

○石毛かずあき委員長 他に質疑はございますか。

○中島こういちろう委員 私からは1点だけ、不登校支援ポータルサイトの件に関して確認をいたします。

先ほど水野委員からも話がありましたが、今回、いろいろPTAの方々にも話を聞いて、更新をいただいているということで、いろいろな情報を詰め込んでいただいているのかなというふうに認識をしています。

その前に保護者の方にもアンケートを取ったりとか、いろいろこの支援を進めていかなければいけないというところの中での変化は感じるものではあるんですけども、このポータルサイトがなかなか情報にたどり着くまでに、ポータルサイトとしての機能として、もう少し拡充が私は必要なかなというふうに個人的に思っています。例えば、

ポータルサイトといいながら、どンドンどンドン降りていくと、結局、東京都の居場所ナビにつなげるものもあつたりとか、ポータルサイトからポータルサイトに話行っているのですよね。これは、多分、サイトというよりは情報を集めたリンクの一番上に来るという状況になってしまっているのではないかなというふうに思っていて、いろいろ試しながらどンドン変化はしていくもののだとは思うのですけれども、足立区の公式ホームページの下に、多分このポータルサイトという枠組みでつくっているというのが根本的な背景の一つとしてあると思うのですけれども、これ別につくらずに足立区の中につくったというのは、理由か何かあるのでしょうか。

○不登校施策推進担当課長 令和6年度末にこちらのポータルサイトを立ち上げさせていただいたところではございますけれども、まずはポータルサイトを立ち上げるというスピード感を持ってということで、区のホームページの直下に作成させていただいた経緯があるというふうに認識しております。

○中島こういちろう委員 そう考えると、スピード感で今こうやって立ち上げていただいているのありますけれども、やはり一番大事なのは、必要な方に必要な情報を届けるというところできくと、今、なかなかダンジョン化してしまっているところがあるということを見ると、今、ポータルサイトとしては機能残しつつ、別にちゃんと設計をして、ちゃんと情報が届くような仕組みをつくっていただく必要があるのではないかなというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

○不登校施策推進担当課長 中島委員御指摘ございました内容もありますけれども、あと、こちらの不登校支援ポータルサイト自体のやはり認知度といたしますか、困ってる方に情報が届いていないという問題もございまして、こういった設計というところも検討させていただきながら、しっかり

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

と困ってる方に届く仕組みというところも同時並行で取り組ませていただけたらなというふうに考えております。

○中島こういちろう委員 分かりました。

まずは、今のこれを知っていただくというのも大事だと思うのですが、知っていただいても、結局情報が届かなければ使われないという話になってしまうので、こういった、例えば振り返り、今回PTAの方々にアンケートを取られてということだと思うのですが、今後これをどういうふうに変えていくかみたいなのは、どのタイミングでどういうふうにしていくかみたいな、決まってるものありますでしょうか。

○不登校施策推進担当課長 現時点で決まっている内容は今のところはございませんけれども、ポータルサイトの内容につきましては、全庁にも定期的に、どのような情報が必要かどうかという調査を掛けて、しっかりと充実の方に取り組んでまいりたいと考えております。

○中島こういちろう委員 そうすると、多分多くの方に伝わって、ちゃんとそれが使いやすいかどうかというのが、なかなか計りにくいのではないかなというふうに思うのですが、それ決めた方がいいのではないですか。いつにもう1回調査をすとか、もう1回この状態で、知っていただいた上で、使ってるのか使えてないのかというのも含めて整備をいただく必要があるかなというふうに思うのですが。

○不登校施策推進担当課長 中島委員御発言の内容につきましては、今後検討させていただいて、しっかりとポータルサイトがよりよいものになるような形で、アンケート等実施できるように検討したいと考えております。

○石毛かずあき委員長 他に質疑はございますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○石毛かずあき委員長 質疑なしと認めます。

それでは、各会派から意見を求めます。

○水野あゆみ委員 区も頑張ってくださいありがとうございます。様々な保護者の声を伺いながら、しっかりとまた政策を前に進めていっていただきたいと思いますので、継続でお願いいたします。

○鹿浜昭委員 知的障がい固定学級の増加に伴う★★の必要性なんかも考えながら、やっぱり子どもたちは大変多様化している中で、行政はそれに対応するというのを今後もしっかりと進めていっていただきたいと思います。

そういった意味で議論は必要と思いますので、継続でお願いします。

○小林ともよ委員 やはり個別最適な学びが重要だということで、今、国の方でもそういった方針出しているという中では、やはり不登校にならない対策としても、情緒固定のモデル実施なども今後進めていっていただきたいと思いますので、採択でお願いします。

○中島こういちろう委員 継続でお願いします。

○石毛かずあき委員長 それでは、これより採決をいたします。

本件は継続審査とすることに賛成の方の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○石毛かずあき委員長 挙手多数であります。よって、継続審査と決定をいたしました。

次に、6 受理番号2 を単独議題といたします。

前回は継続審査でありました。

最初に、追加署名の提出がありましたので、区議会事務局次長から報告をお願いいたします。

○区議会事務局次長 6 受理番号2 の陳情につきましては、4月14日付で30名の追加署名の提出があり、合計で5,914名になりましたので御報告いたします。

○石毛かずあき委員長 それでは、執行機関、何か変化はございますか。

○教育指導課長 特段変化はございません。

○石毛かずあき委員長 それでは、質疑に入ります。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

何か質疑はございますか。

- 小林ともよ委員 昨年の10月の文教委員会で、区が定める授業時数の上限が1,085だということが分かり、国の標準時数の1,015大きく上回っていることが分かりました。しかし、学校によっては1,030でできているという学校もあるということも分かったのですけれども、文科省でも令和7年7月9日の教師を取り巻く環境整備特別部会の資料では、授業時数を1,015にする工夫などを示しています。余剰時数が多い学校については、時数が少なくてもできる学校や文科省の示す案を参考に、区が上限の時数を減らす必要があると思いますが、いかがでしょうか。
- 教育指導課長 区といたしましても1,015になるようにということでお話をしてるところではあるのですけれども、やはり学校としては、きちっと内容が子どもたちに理解できるような時間をしっかりと確保する、また、インフルエンザ等々、学校が閉鎖しないといけない状況になったとしても、十分にその内容が子どもたちに伝わるようにということで、余剰時数を学校によって定めているところがございます。
- 小林ともよ委員 先生の子どもたちに分かるような授業ということは分かるのですけれども、その先生がやっぱり元気でなければ学校も大変だということでは、この1,085というのは国が言ってる最高の多分上限だと思うのですよね。もっと下回る上限に定めることできると思いますが、再度いかがでしょうか。
- 教育指導課長 1,015は国が定めている時数の標準時数でございますので、なるべくこの時間を下回ったりとか、過剰に上回ったりしないようなところで授業時数を組むようにということの指示でございますので、1,015につきましては、これは標準時数というふうにこちらとしては捉えているところがございます。
- 石毛かずあき委員長 他に質疑はございますか。

○水野あゆみ委員 1点だけ、教員の働き方改革についてのアンケート、4、教員の業務状況調査について、本会議でしっかりやってほしいということをお伝えをしました。今年度から毎年やっていきますという答弁がありましたけれども、今年度いつ頃やっていただくことになってるのか、それだけ確認させてください。

○教育指導課長 実施時期につきましては今検討してるところでございますので、決まったところで、またお伝えしたいというふうに考えてございます。

○水野あゆみ委員 しっかりと状況調査、またアンケート、意見を聞いて、しっかりと働き方改革につなげていっていただきたいなと要望して終わります。

○石毛かずあき委員長 他に質疑はございますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○石毛かずあき委員長 質疑なしと認めます。

次に、各会派からの意見を求めます。

○水野あゆみ委員 継続をお願いします。

○鹿浜昭委員 この件に関しては、やっぱりずっと継続して改革していかなければいけない問題だとは思っております。

せんだっての入学式でも、足立区は4月6日小学校、7日中学校というような形で進めてまいりましたが、他区においては8日からというような形で、今年から変わってる。2日間延びても授業日数等は全然問題ないというような、臨機応変に変更をしている学校、葛飾区だったか、板橋区だったか、そんなような形で変わっております。始業式、終業式も、そういった意味で臨機応変に、今後検討していくことは十分考えられることかなというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひまして、議論を重ねていく必要あると思ひますので、継続をお願いします。

○小林ともよ委員 先生の不足ということも今課題になっていて、その中での多忙化もありますので、先生が働きやすい環境を整えていくという部分で

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

も、授業時数の負担の軽減ですとか、まだまだ進めていくというところがあると思いますので、採択をお願いします。

- 中島こういちろう委員 継続をお願いします。
- 石毛かずあき委員長 本件は継続審査とすることに賛成の方の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

- 石毛かずあき委員長 賛成多数であります。よって、継続審査と決定をいたしました。

次に、6 受理番号 4 を単独議題といたします。

前回は継続審査であります。

執行機関は何か変化はございますか。

- 支援管理課長 特段変化はございません。
- 石毛かずあき委員長 それでは、質疑に入ります。何か質疑はございますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

- 石毛かずあき委員長 質疑なしと認めます。次に、各会派から意見を求めます。
- 水野あゆみ委員 前回同様、継続をお願いします。
- 鹿浜昭委員 継続をお願いします。

- 小林ともよ委員 足立区で様々な場面で今活躍しているペアレントメンターが更に活動しやすくなるように、足立区の施設内での事務所の整備なども行っていく必要があると思っておりますので、継続をお願いします。

- 中島こういちろう委員 継続をお願いします。
- 石毛かずあき委員長 それでは採決いたします。本件は継続審査とすることに御異議ございませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

- 石毛かずあき委員長 御異議なしと認め、継続審査と決定をいたしました。

次に、(6) 7 受理番号 5 を単独議題といたします。

前回は継続審査でありました。

最初に、追加署名の提出がありましたので、区議会事務局次長から報告をお願いいたします。

○区議会事務局次長 7 受理番号 5 の陳情につきましては、4 月 14 日付で 19 名の追加署名の提出があり、合計で 1, 203 名になりましたので御報告いたします。

○石毛かずあき委員長 執行機関は何か変化はございますか。

○教育政策課長 特段の変化はございません。

○石毛かずあき委員長 それでは、質疑に入ります。何か質疑はございますか。

○小林ともよ委員 小学校へ図書館司書を配置する際に、直営ではなく図書館流通センターを利用する理由として、図書館流通センターでは資格を持っていない人にも資格取得の支援ができるということも理由の一つとしてあったと聞いています。

今、司書補の方ですとか、あと、資格を持っていない方も支援員として勤務していると思いますが、こういった方たちが司書の職を取って継続して足立区で働いているという実績はあるのでしょうか。

○教育政策課長 毎年人数は変わりますが、何人かの方については、司書の資格を取っても続けて足立区で勤務されているというふうに聞いています。

○小林ともよ委員 そういった司書の資格を取ったとしても時給が 1, 400 円ということで、本当に安い中で働いているということでもあると思うのですね。

図書サポの資料提供がありまして、私これを読んだのですが、舎人第一小学校で専科の教員、担任、支援員が連携して事業を行っていたりですとか、舎人小学校でも、担任、図書館の担当教員と支援員が協力し合っている様子が記載されています。

学校図書館の利活用推進校の指定期間 2 年ですが、この期間が終わっても推進力を高めていく必要があると思いますが、いかがでしょうか。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

○教育政策課長 今、小林委員おっしゃったように、指定の期間が終わりましても引き続きやっていたきたいと思っておりますし、また、引き続きやっていくための機関として2年間頑張っていたと思っていますので、各学校にもそのようにお伝えしています。

○小林ともよ委員 その推進力をやっぱり高めていくためにも、継続して学校にいてもらうということも必要だと思うのですよね。そんなにころころ派遣社員だからといって代わるわけではないという、この間答弁していますけれども、やっぱり区の直営で週4日ではなく5日の勤務にすることによって、教員と協力し合える信頼関係をもっと強めていけると思います。それも子どもたちの支援をしていくという中では重要だと考えています。

図書館流通センターとの契約が切れるまでに、是非、次の展開として、常勤直営でやっていく方向にかじを切っていただく判断をするべきだと思いますが、いかがでしょうか。

○教育政策課長 次の更新まで2年間ありますけれども、その間、子どもたちにとってどのような形の支援がいいのか、直営なのか派遣なのかとありますけれども、それも含めて検討していきたいと思っています。

○石毛かずあき委員長 他に質疑はございますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○石毛かずあき委員長 質疑なしと認めます。

次に、各会派から意見を求めます。

○水野あゆみ委員 継続をお願いします。

○鹿浜昭委員 継続をお願いします。

○小林ともよ委員 採択をお願いします。

○中島こういちろう委員 継続をお願いします。

○石毛かずあき委員長 これより採決をいたします。

本件は、継続審査とすることに賛成の方の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○石毛かずあき委員長 挙手多数であります。よっ

て、継続審査と決定をいたしました。

次に、受理番号1を単独議題といたします。

今回は継続審査でありました。

○石毛かずあき委員長 執行機関は何か変化はございますか。

○教育指導課長 特段変化はございません。

○石毛かずあき委員長 それでは、質疑に入ります。何か質疑はございますか。

○小林ともよ委員 簡単な質問ですけれども、前回の委員会で、いじめ防止の各学校での取組について、年間各学年35時間の道徳の中で、これまで体験したことのない疑似的に体験して、そういった経験をしながら、そういう感覚を身に付けていくという取組を行っているということでしたが、道徳の中でもそうなんですけれども、実際にいじめが起きたときに、そのときにきちんと子どもたちを集めて考えるような機会を与えることも必要だと思いますが、そういう取組は行われているのでしょうか。

○教育指導課長 様々な案件が学校で起こります。いじめだけではなくて、例えば、移動教室に向かうときですとか、様々な場面を通して、学校としては子どもたちに考えさせるという場面はつくっておりますので、例えば今回のいじめについては、学年集会ですとか、また教室でいうと学級活動ですとか、そういったところでも取り扱って、よりよい行動ですとか、よりよい考え方を伝えている活動はしているところでございます。

○石毛かずあき委員長 他に質疑はございますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○石毛かずあき委員長 質疑なしと認めます。

次に、各会派から意見を求めます。

○水野あゆみ委員 継続をお願いします。

○鹿浜昭委員 継続をお願いします。

○小林ともよ委員 不登校児童・生徒も増えておりまして、いじめの調査でも深刻なものがあると明らかになったことから、いじめ防止の取組はまだ

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

まだ不十分だと考えます。

より推進していく必要があると思いますので、採択をお願いします。

○中島こういちろう委員 継続をお願いします。

○石毛かずあき委員長 これより採決いたします。

本件は、継続審査とすることに賛成の方の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○石毛かずあき委員長 挙手多数であります。よって、継続審査と決定をいたしました。

次に、受理番号5を単独議題といたします。

最初に、追加署名の提出がありましたので、区議会事務局次長から報告をお願いいたします。

○区議会事務局次長 受理番号5の陳情につきましては、4月14日付で343名の追加署名の提出があり、合計で511名になりましたので御報告いたします。

○石毛かずあき委員長 本陳情は新規付託でありますので、執行機関の説明を求めます。

○学校運営部長 恐れ入ります、文教委員会の請願・陳情説明資料の2ページをお開きください。

件名は、竹の塚中学校と渕江中学校の統合を中止し両校の存続を求める陳情でございます。

所管部課名は記載のとおりでございます。

陳情の要旨でございますが、おおむね5点にまとめさせていただいております。

一つ目が、竹の塚中学校、今、不登校対策で残してほしい。また、竹の塚地区については人口増の可能性があるので、あわせて残してほしいというお話。

それから2点目が、渕江中学校自体、今、適正規模ですので、統合する必要はない、単独で施設工事、建て替えをしてほしいということ。

3点目は、統合により通学距離が延びて、生徒、家庭に負担が掛かるということで、中止してほしいということ。

4点目が、中学生の意見を聞いてほしいという

こと。

5点目は、災害時の避難所がなくなる、学校を統合するとなくなるので、そういうことのないようにしてほしいというようなことが5点、記載をさせられておりました。

3ページ目に、内容及び経過の方を記載いたしました。

項番1については、先月の文教委員会で報告した中身の概要でございます。何点かだけ私の方から補足をさせていただければと思います。

3ページ目の真ん中ぐらにある表でございますけれども、それぞれの学校の学区にお住まいになっている子どもたちの人数をグラフにしたものでございます。左側の方が3月に卒業した、いわゆる中学校3年生の人数、竹の塚中学校では89名、それから、渕江中学校については173名が学区に在籍をしておりましたけれども、その後、年々、竹の塚中学校の人数はそんなに変わらないのですが、渕江中学校については、3歳児、4歳児あたりから100人、それ以降は100人を切るような人数のみの学区にお子さんがいるような状況になっております。

また、下の表については、今、私どもの方で一番早くて、統合、令和11年を予定しておりますが、仮に統合させていただいた場合は、その際は20クラスということで、統合の学校が始まるというふうに考えておりますが、その後、令和17年においては、クラスとしては17学級まで減ってくるというような状況が見えております。

次のページ、4ページですけれども、通学距離の関係となります。今回御提案させていただいているのは、渕江中学校に新しい統合校をつくるということで御提案させていただいております。ちょうど右側の地図の円グラフになります。渕江中学校、竹の塚中学校両方の学区を含めても、子どもが御提案している適正な距離の範囲内に含まれることを確認をしております。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

次、項番2番でございます。陳情の要旨に対する区の考えということで、5点、それぞれまとめさせていただきました。

まず、項番2番の(1)、竹の塚中学校の存続につきましては、繰り返し御答弁させていただいておりますけれども、区といたしましては、適正な規模の中で子どもたちが活動するというのが一番最適だというふうに思っておりますので、いわゆる不登校対策として、適正配置事業で学校の統合をやめるということを考えていないところでございます。また、先ほど御案内したとおり、今、最短で統合できる場合は20学級でスタートしますけれども、その後、令和17年には17クラスになりますので、仮に、竹の塚のまちづくりで人口が増えたとしても、十分、子どもたちは受け入れができるというふうに想定をしているところでございます。

また、(2)については、繰り返しですけれども、湊江中学校自身が令和17年にはもう小規模校になってしまうということになると、竹の塚地区の二つの中学校が両方とも小規模になるというような状況がもう見えてきておりますので、単独で建て替えというのは考えていないというところでございます。

通学距離については先ほど御案内したとおりでございます。

また、(4)番、生徒の聞き取りについては、今までも統合の際には子どもたちの意見を聞いて、例えば新しい学校の名前とか、校章あるいは校歌、中学校にいたっては標準服の設定等も子どもたちの意見を聞いて決めてきておりますので、湊江中学校、竹の塚中学校においても、統合することが方向性決まりましたら、子どもたちの意見を聞いて、よりよい学校をつくっていきたいと考えております。

また、(5)の避難所機能等については、建て替えて新校舎になった方が備蓄の整備、あるいは、

よりどころと避難所の強化というのは十分できるというふうに考えておりますので、むしろ統合した方がいいというふうな考えを持っております。

適正配置事業におきましては、現在の状況を、確かに小規模校ということで登校を選んで入学していただいているお子様もいることは十分承知しておりますけれども、5年、10年先、あるいはもっと先、どういった形になってくるかということ視点を考えるのが重要と思っております。

引き続き丁寧な説明に努めて、1人でも多く御理解いただけるように努めていきたいと考えております。

○石毛かずあき委員長 それでは、質疑に入ります。

何か質疑はございますか。

○小林ともよ委員 まずこの陳情にもあるように、湊江中学校は適正規模であるということ、今の時点で、竹の塚中学校も単学級ではなく2クラスあって、現在1歳の子どもの人数、人口の推移を見ても、両校とも各学年クラス替えができる2学級を維持できる人口になっています。それプラス、外から入ってくるお子さんもいらっしゃるということでは、そんなに特別な小さな学校になっていくというわけでもないと思うのですね。

竹の塚中学校に関して言えば、他の学区域からもあえて選んできている生徒24%もいるということで、この地域は第十四中学校も入れますと、大規模校の第十四中学校があり、中規模の湊江中学校があって、小規模の竹の塚中学校とバランスよくある地域なんだなと私は感じているところなんです。

足立区では学校選択制導入しておりますから、子どもにとって適正規模だと思える学校を子どもたちが、自分自身が選べるようにしておくべきだと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○学校適正配置担当課長 今御質問ありましたところでございますが、区といたしましては、やはり小規模の学校を適正規模化していくこと、これが

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

一番重要な視点で、取り組む際の一番の目的で考えているところでございます。

今、小林委員おっしゃったとおり、地域広く見ると様々な規模の学校がありますけれども、我々としては、竹の塚中学校、また、瀬江中学校、こちらも先ほど答弁させていただいたとおり、将来を見ますと、学区域に住むお子さんの数がどんどん減ってきて、竹の塚中学校と同規模の小規模の学校になってしまうところございますので、そういったところを総合的に踏まえまして学校の適正規模化に取り組んでいる、また、取り組んでいきたいというふうに考えてございます。

○小林ともよ委員 区は今の時点での人口の推計が減っていくということで示しておりますけれども、今後、竹ノ塚駅前は今から開発されるエリアでもあります。開発後の人口の推移がどうなっていくか、区はつかめているのでしょうか。

○エリアデザイン計画担当課長 現在、竹ノ塚駅周辺をエリアデザインのまちづくりを進めておりまして、具体的にはURの第3団地の建て替え、第1期の工事を今、令和7年度から進めているという状況です。

細かい数字でお話しさせていただきますと、令和7年度から令和11年度以降に掛けて120戸、2棟の建設を今予定して進めているという状況となっております。

○小林ともよ委員 あの通りにある団地がこれから順次建て替えになっていくという話で、それはいつ完了するか分からないという中では、人口の推移がどうなっていくかというのは、明確には分かっていないことだと思うんですね。

10年先を見越してと言いますけれども、10年先もどうなるか、確かな確実性はないという中で、もし万が一、大規模になってしまったときの解消の手段、これは区の方はどのように考えているのでしょうか。

○学校適正配置担当課長 仮にそういった状況があ

れば、子どもたちの教育環境を維持、向上させていくために、例えば校舎を新しくつくるのですとか、教室を増設するとか、そういったところは、その時期になって最適な対策を打っていきたいというふうに考えております。

○小林ともよ委員 その時期になってということだと、なかなか解消できないということにつながっていきますので、そうなる前にきちんと、それはエリアとしても地域がどういったことになっているのかつかんでおく必要があると思うのですね。

今回の文教委員会の報告でもありましたけれども、知的固定級とか情緒固定級の設置が望まれている中で、学校の大規模化をするべきではありませんし、そういった学校ができていないという状況があるわけですね。

なので、小規模である、教室がまだ残っているようなところにも設置できるという可能性があるわけですから、そういったところも生かしていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○学校適正配置担当課長 今のお話、少人数学級のお話も絡めてということでの前提でよろしいでしょうか。という前提で御答弁を……。

失礼しました。知的固定の学級数等については、やはり地域によってそういったものが必要になるところが分かれてくると認識しておりますので、今回、小規模の対象として、区の方で、我々の方で上げさせていただいたところについては、もし必要であれば、そういった学級も含めて、新築する際には教室等は設けて進めていきたいというふうに考えています。

○小林ともよ委員 是非小さい学校を潰すということはないで、そういったところにも活用していただきたいと思うのですね。

あと、国の基準では、12学級から18学級が適正としているにもかかわらず、足立区はなぜ24学級までとしているのか、再度確認したいと思います。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

○学校適正配置担当課長 適正規模の基準でございますが、国では、今、小林委員御指摘いただいたとおり、学校教育法の施行規則の中では12から18と記載がございますけれども、そのほかに、義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令におきましては12から24学級という記載がございますし、文科省の手引につきましても25以上が大規模校というような記載もございます。また、昭和62年に答申がございました中では、12から24学級が妥当ということもお示しされておりますので、区といたしましては、そういったところを総合的に踏まえまして、12から24学級の範囲が適正な規模ということでガイドラインの方にお示しをしているところでございます。

○小林ともよ委員 今朝、ちょっとそのやり取りをしたところだったと思うのですが、区が示してきたのは、平成7年12月の足立区の小・中学校の適正規模・適正配置及び改築計画に関する報告書に、12学級から24学級が望ましい範囲とするとしていることから、そうしているという回答はあったのですが、しかし、その文書、私も読んだのですが、その後、考え方の方を見ると、答申の中間値を取って中学校は15から18学級を設定したというふうに記されているのです。なので、なぜ24学級にしたのかというのは説明になっていないと思うのですが、再度説明よろしくお願ひします。

○学校適正配置担当課長 私の認識としましては、先ほど申し上げた区への答申、そちらで12から24学級が適正規模として妥当だということがあり、それを踏まえて、平成7年に報告書というものをまとめた際に、同じくその答申を踏まえまして、12から24学級が適正規模の範囲だということで、それらを踏まえまして、今、平成7年の報告書が35年の長期にわたる計画でございますが、最後の8年間は、昨年10月にガイドラ

インでお示した8年間に当たります。つきましては、平成7年でお示しをされた12から24学級という規模が、今回改定をしたガイドラインでお示ししております適正規模の範囲というところで変わりなく、変更なくそちらの方をお示しをしたというところでございます。

○小林ともよ委員 よく読むと、15から18学級に設定したと記されてるわけですね。24学級だから25学級ではないから大規模ではないと区は言うかもしれませんが、あんまり変わらないというところでは、大規模校におけるデメリットというのそこには記されておりました。例えば、児童・生徒が多くなることから、教員も含め、互いに知り合う機会が少なく、人間関係希薄になって、全体としての連帯感が乏しくなるですとか、あと、児童・生徒一人一人に目が行き届きにくく、生活指導面できめ細かい指導が困難になるですとか、あと、クラブや部活動に関しても、校庭などの利用や練習の制約が多くなって、部活動にも困難を来していくというようなことが書いてあるわけですね。これまで区が説明してきた小規模校のデメリット的なものが丸々そのまま大規模校にもデメリットとなっているということも分かるわけですね。たくさん生徒の中で社会性を育てていくのだということも言うておりますけれども、この陳情で言われているのは、不登校になってしまうかもしれない子どもたちが、今、竹の塚中学校で生き生きと不登校にならずに通えているということから、こういった不登校対策としてということが適切かどうか分かりませんが、不登校にならずに済んでいる、そういった状況を壊すべきではないという、そういった訴えだと思っておりますが、その辺どのように判断しますか。

○学校適正配置担当課長 まず1点目の御質問で大規模のお話でございますが、区といたしましては大規模化を目指しているわけではなく、適正規模化を目指しております。つきましては12から2

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

4の学級の範囲の中で、小規模の学校が適正規模化になるようにというところで取組をしているところがございますので、そこは大規模のデメリットがそのまま適正規模化された学校に当てはまるというところの認識はしてございません。

また、不登校対策の点でのお話になりますが、例えば竹の塚中学校につきましては、不登校の出現率、区内の平均よりも2倍以上の数字で示されているというところで聞いておりますので、小規模だから不登校対策が行き届いているかというところではないというふうに認識をしているところでございます。

○小林ともよ委員 不登校になりがちな子が転校しているという、そういったこともあると思うんですね。だから出現率というよりは不登校になりがちな子たちが転校してきているという実態もあると思うのです。

切磋琢磨して社会性を育むことが適正規模にすればできるのだということですが、今、竹の塚中学校6学級ですよね、1学年2学級なので。それが統合されるとなると22学級になっていくということで、大幅な環境の変更になっていきます。そういった中で、やっぱり小規模校の子たちが、今まで一人一人大事にされた教育を受けていた子どもたちにとっては、様々なストレスを抱え込むことになっていきますので、不登校対策にはなり得ないと私も認識しております。適正規模・適正配置が不登校対策にはなり得ないというのは認識しているのですね。むしろその適正規模・適正配置を行うことで不登校を助長するのではと思っているのです。

区は、適正規模・適正配置をすることで、切磋琢磨して社会性を育んでいけるのだと、そういう機会を与えていくのだということを繰り返し言ってますけれども、もし不登校になって家に引きこもってしまえば、社会性を育んだり切磋琢磨する機会もなくなります。我が子は小規模校に通って

いた経験から言うと、学芸会などで照明の係を任せられたりですとか、ほかの役も担当したりですとか、あとは勉強できる子とできない子、体育が得意な子、そうでない子が分断されずに、お互いに学び合って成長していく姿を見てきました。大規模ではなかなかこういった教育できないと思うんですね。

そういった時間を指導すること難しい中で、区が統廃合で小規模校をなくすということは、そういう子どもの機会を奪うことになると思いますが、それでもいいという判断なのでしょうか。

○学校適正配置担当課長 小規模校が適正規模化するに当たって、子どもの数が増えます。子どもの数が増えますと、当然、教員もその分、配置がされますので、子どもからすると、やはり子ども同士、また大人の教員とも関係性を築ける、また、そういったコミュニケーションが深く取れるというところで、やはり社会性ですとか人間力なんかより養われるものというふうに認識をしております。そういった意味では、やはり小規模校を適正規模化することが、区としては責務として捉えて取り組んでいるところでございます。

○小林ともよ委員 教員からも大きな学校になればなるほど、やはり負担が増えていくという声も出ております。それと、子どもの意見を聞くということなんですけれども、新しい学校を意識してという答弁、子どもが統廃合に反対する意見を説明会で言ったときにそういった答弁したということで、子どもの意見に向き合わない姿勢であり、子どもを傷つける行為だとも思うのです。きちんと向き合うべきです。そして、子どもではない地域の大人も反対の意見を述べています。パブコメも91%が反対、1月30日に竹の塚中学校で行われた説明会に参加した保護者も、ほぼ反対の意見を述べていたと聞いています。その説明会の中で、統廃合された新しい学校では、学校が荒れて就任の職場体験ができなくなったり、警察OBが入っ

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ていたり、冬には保護者が車で送り迎えを行っているなど、様々な困難が生じたという発言もありました。あと、渕江中学校が荒れていた頃に、PTA会長やっていた方からも、ようやく落ちついてきたのに、またそれを壊すつもりなのかと、統廃合に反対する地域の方もいました。こういう声もきちんと受け止めるべきだと思います。

大人の責任で統廃合を決めるのだということであれば、学校をつくり上げてきた地域の大人の意見も受け止めるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

- 学校適正配置担当課長 今、小林委員御指摘いただいた保護者説明会で様々御意見をいただいたことに関しましては、私としましては真摯に受け止めているところでございます。

一方で、例えば両校の開かれた学校づくり協議会の会長ですとか多くの会員の皆様、また、対象地域の地区、町会・自治会連合会の皆様、また、保護者説明会に出られて、反対の御意見、御質問なく、途中で退席された方につきましても、お話を伺うと、子どもが減ってきている状況、また、学校の施設も老朽化している状況等を踏まえますと、やはり統合はやむなしだという御意見も一方でいただいているところでございます。

区といたしましては、そういったところを総合的に踏まえまして、子どもたちの教育環境をいかに向上させていくか、充実させていくかという視点で、この事業については取り組んでいるところですので、そういった視点で、引き続き着実に進めてまいりたいというふうに考えてございます。

- 小林ともよ委員 竹の塚中学校に関して言えば、今後もそんなに子どもの人数が減っていかないということ分かっているわけですね。1学年2クラスで6クラスということが維持できていけるということが今分かっている状況でもあります。

今、老朽化も含めてということもありますけれども、長寿命化ということが、今、学校の施設で

はやっぺいこうという区もなっている中では、特にそんなに急いで、老朽化しているから、建て替えてではなくて統廃合していかなくちゃいけないということにもなっていないと思うんですね。

私が、今、書面では確認していないのですが、竹の塚中学校の保護者の方々が今署名を集めているという情報も入ってきています。その点に関して、区は把握していますでしょうか。

- 石毛かずあき委員長 大変申し訳ありませんが、保護者や関係者の方から御意見それぞれいただいとると思います。それを全部ここで吐き出すと、2時間3時間あっても足りませんので、そこは簡明にさせていただいて、よろしくお願ひいたします。
- 学校適正配置担当課長 そういった動きがあるということは認識してございます。

- 小林ともよ委員 説明を行うごとに反対の声が大きくなっているというのが現状だと思います。きちんとそれを踏まえていくべきだと思いますがいかがですか。

- 学校適正配置担当課長 様々御意見があるかと思ひますので、そちらは全て確認をさせていただいて、真摯に受け止めながら、区の考えについては、引き続き丁寧に御説明して取組を進めていきたいというふうに考えてございます。

- 石毛かずあき委員長 他に質疑は。
- 水野あゆみ委員 私からも何点かお伺いをいたします。

今、反対の声がだんだん大きくなっていることではありましたが、私も友人等に竹の塚中学校の卒業生の方もいらっしゃるの、どう思っているかと聞いたところ、統合賛成という御意見もありました。また、自分たちの税金が使われているわけですから、適正に使ってほしいというような御意見もあったのも事実なのですが、こうした前向きな意見というのは、反対の意見はもちろんいろいろ署名などもいただいとるということなのですが、賛成についてはどういった御意見を伺って

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

いるのでしょうか。

○学校適正配置担当課長 先ほども少し触れさせていただきましたが、例えば、区が今回お示しをさせていただいておりますスケジュールどおりに進めていってほしいというお声ですとか、あとは地域の中でやはり調和を保っていきたいというような前向きなお声もいただいているところがございます。

○水野あゆみ委員 署名が511名来たということで、どうしても反対の御意見ばかりがクローズアップされてしまうのですが、そうした賛成の方の御意見、またそういうのもしっかりと考えていかなきゃいけないなというふうに思います。

また、今回、竹の塚中学校と淵江中学校のエリアごとに統合を考えていくということで、適正配置を考えていくということで竹の塚中学校と淵江中学校というふうになったのだと思うのですが、この511名の署名ということですが、これは学区、そのエリアの方々からの署名になっているのでしょうか、お伺いします。

○石毛かずあき委員長 事務局どうですか。

○区議会事務局次長 大変申し訳ありません。確認させていただいて、後ほど御報告させていただきます。

○水野あゆみ委員 これがまた学区の中の方たちの話となるとまた変わってくるのかなというふうに思いますが、区内であろうが区外であろうが様々な方が署名できるというのもこの陳情の署名であると思いますので、ここもしっかり確認をしていただきたいと思います。

その上で、この小規模の状況というのは、もう本当にクラス替えができないとか、部活動もできなくなってしまうとか様々なリスクもあるのも事実なわけで、子どもたちの学習環境にとってもよくないということもあります。改築された学校、片や見ていくと、屋内プールがあったり、また、すごい演劇場のような舞台がセットされていたり、

音楽室であったり、広い図書室があったり、本当にすばらしいなというふうに、目からうろこが落ちるぐらい、これで同じ区立学校なのかなという、同じ区立学校に通わせている保護者としては、これ公平ではないよなと思ってしまうぐらい本当にすばらしい施設になっているので、是非そうしたすばらしい環境、不公平感なく、そういったところで学習していただきたいなというのも私はそういうふうに思っています。

ですので、同じ区立学校でありながら、不公平感があるのではないかとこのところについてはどのように考えていらっしゃいますか。

○学校施設管理課長 どうしてもやはり建築技術等の発展、設備の最新のものとなっていくと、そのときの学校要望とか、地域の方々の子どもたちの学習環境のためにそういった施設を建てさせていただいておりますので、そういった形で新しいものはよりよい施設にしていきたいし、そういうふうになっていくものとなって考えておりますが、一方で、古くから以前に建てられた建物に対しても、より同じように子どもたちの学習環境を整えるべく、必要な改修等や設備の更新等はさせていただきたいと考えてますし、今後も区としては、なるべく公平になるように、そういった形で改築や改修の方は取り組んでいきたいと考えてございます。

○水野あゆみ委員 本当に築50年を超える古い学校が半数程度になってきているのが事実なんですね、102校ある中で。そういったところを、この大規模改修にも載ってない学校が多いわけですから、それを改築された新しい学校のようにしていくというのは無理があって、今1年生の子は6年生になって、卒業してもまだできないという状況の学校は山ほどあるので、そうしたところをどういうふうに整合性取っていくのかなというのはすごく感じます。

基本的には、私はこの適正規模・適正配置とい

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

うのは進めていかなければいけないというふうに思っています。なのですが、その上で、この竹の塚中学校というのは、令和9年度、来年度、大規模改修の計画が実施計画の中に入っていたと思うのですが、それが直前で統合の案が出てきたというところで、この統合を検討する時期と改修の時期というのが違っているのかなというふうに、担当部署も違うと思うので、そういったそごが生じてしまうのかなと思うのですが、この統合の案というのが出るのが随分直前過ぎるなというふうに私としては感じています。

どこの学校を残してどこの学校を統合するのかというこの判断については、最終的に誰が決定をしているのでしょうか。

○学校適正配置担当課長 最終的には区の教育長になろうかとは思っておりますが、その前段で、両校の開かれた学校づくり協議会のメンバーの方を中心に構成する統合地域協議会の場で素案が成案化されて、初めて進められるものというふうな認識をさせていただきます。

○水野あゆみ委員 今回お示ししていただいた個別計画もあるのですね、書類ではいただいているのですが、オンラインの中に入っていますけれども、私も本会議で、102校ある学校をいつ改修するのか、いつ改築するのか、そういったことが分からないと議論にならないよということで、長期で示してほしいというふうに言った中で、長期で示すのは実効性がないということで答弁いただいて、やらないということであったのですが、この8年間の実施計画であっても進めてないところがあるというところで、整合性が取れてないのではないかなというふうに思いました。

前回の個別計画では、中川小学校改築の計画に入っていたのですが、今回の見ると、中川小学校なくなっちゃっているのです。これはどのような検討がされたのでしょうか。

○学校施設管理課長 今回の廃校の目玉の一つであ

ります耐用年数評価の調査によって、中川小学校モデル校として実施をさせていただきました。その結果、100年もつという結果が出てございましたので、それを反映させて、今回の改築計画とさせていただいたところでございます。

○水野あゆみ委員 耐用年数102年になるということも私も伺いました。そうなってくると、本当に半数以上の学校が50年以上経過してる中で、なかなか改築した新しい学校のような学習環境で学べるというのは本当に難しい状況になっているのではないかなというふうに考えます。

もう1点、小規模のままにしておく、数年後、十数年後に過小規模になってしまうのではないかなということも思うのですが、というのも、今、足立区の小・中学校、4割程度が適正規模ではなくて小規模の状況になっているのですね。そういったことも考えると、数年後、十数年後に過小規模

になってしまわないかということで、過小規模になってから統合を検討されるのでは、私も本当に遅過ぎるというふうに思うのですが、何が言いたいかというと、なぜ今回、この竹の塚中学校と渟江中学校の統合ということで、優先順位ここになったのかということをお伺いしたいと思います。

○学校適正配置担当課長 昨年10月にガイドラインを示しました。そのときには、竹の塚と花畑と中川、三つの地域に取り組んでいくということをお示ししてございます。その中で、中学校と小学校がそれぞれ3地域で9校ございますが、我々としては、小学校からやるよりも中学校を先に取り組んでいきたいというふうな意図がございまして、仮に小学校からやると、小学生が仮校舎に過ごしてしまう期間ができ、そのまま中学校に上がったときに、また、統合のときに仮校舎で過ごすというようなことも想定されますので、区としましては、そういったことが起きないように、まず中学校からというところで考えております。

そうしますと、中学校がある地域が花畑と竹の

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

塚の地域になりますので、竹の塚の方から先行して、個別の計画案についてはお出しをしているところでございます。

- 水野あゆみ委員 小規模校が本当に多くて、適正規模・適正配置というのにおいては、本当に優先順位持ってやっていかないといけない話だと思うのですね。一気に10校できるわけではないです。そういったところで竹の塚中学校が上がってきたのかなというふうに思うのですけれども、もう1点、私も質問したいと思ってるのは、やはり足立入谷小学校ですね。

今年度も入学者数大変少なかったと聞いてますけれども、何人だったのでしょうか。

- 石毛かずあき委員長 出せますか。
- 学務課長 4人でございます。
- 学校運営部長 足立入谷小学校の今年の入学生は1年生4人ということで、学区域内が2人、学区域外が2人、計4人という状況でございます。
- 水野あゆみ委員 2年生も今2人とか、3年生も本当に少ないという状況がある中で、このような過小規模の状況というのは、本当に健全な学校生活が、学習環境というか、そういうのに値するのかなというのはすごく私は疑問に感じています。

そこをどういう理由で残されるのかなというのは、優先順位と考えた中でどういうふうに考えるのかと、今一度お聞かせいただきたいのですが。

- 学校運営部長 今、水野委員から御発言のあった足立入谷小学校については、学区域にはお子さんがいらっしゃるのですね、40人ぐらい。その中で、選択制で隣接の学校に行ってしまうと、結果として4人が入学生というようなことになっております。

今回、陳情でいただいている中身については、学区域の子どもたちがどれだけいるかという視点で検討させていただいております。竹の塚中学校については学区域に100人弱のお子さんしか住んでいないというような状況の中で、更に言うと、

渕江中学校も今後減っていくというようなことを見据えて、適正規模・適正配置、個別計画の統合の話を今回御提案させていただいたという中身になって、足立入谷小学校と竹の塚中学校、渕江中学校は少し違うというようなことになります。

- 水野あゆみ委員 教育委員会としての言い分は分かったのですが、でも実態として適正規模ではないよねという、今現在、適正ではないよねというのは、そういう検討材料になるのかなというふうに思います。適正規模・適正配置を目指すのであれば、やっぱりそういったところも本当は検討していかなければ、数名、数十名のための学校に1年間も維持、管理費高騰して、そういったものにも莫大な費用が掛かっています。税金が使われてるわけですから、しっかり費用対効果というか、区民に納得がいくような説明ができなきゃいけないと思いますので、私、竹の塚中学校の適正規模・適正配置を進めることに反対してるわけではなくて、むしろ適正規模というのは進めていかなきゃいけないと思ってますけれども、優先順位というのはしっかりと、更に進めていっていかなくちゃいけないと思いますが、教育長いかがでしょうか。

- 教育長 先ほど話題に出ております足立入谷小学校の区域に関しては、生産緑地が多くて、そこが開発が進むことも想定しながら、今回、適正規模・適正配置の中からは除外はされているのですけれども、ただ、今の実態、いろいろ学校の方、また地域の方々とお話ししながら、何か改善の余地があるかどうかということの検討はしておりますけれども、この先それが改善見込めなかった場合には、ほかのいろいろな手段も考えなければいけないというふうに思っております。

そういった意味では、足立区全体の中で、やはり最適な教育環境をしっかりと整えていくという視点では、全体を改めて見直していくことは今後していきたいと考えております。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

○水野あゆみ委員 教育長のおっしゃることも分かるのですが、やはり今現在、最適な教育環境になっていないなというふうに思いますので、その子たちが卒業してしまうぐらいにやられても遅いわけで、本当に後手後手になってしまってるなというふうに思いますので、しっかりと検討を進めていっていただきたいと要望して終わります。

○石毛かずあき委員長 他に質疑は。

○鹿浜昭委員 私からも今の件で、経験者というわけではなのですが、鹿浜江北地域では、以前に学校の統合問題があって、10校が5校になったと、一番規模的には大きいのかな、千住より大きいのかな、多分。本当にそのときはいい経験させていただいたという実感でございますが、当然、今回陳情が出て、地域の方々、今日も多数見えてますけれども、本当にそういった意味で愛校心、地域の学校として、竹の塚中学校、瀏江中学校、存続をやっぱり希望しているというのも十分分かります。

私たちも同じ経験をさせていただきながら、やっぱりメリット・デメリットが当然そこには出てくるということで、ある意味、子どもたちというのは柔軟性がすごくあって、統合しても子ども同士すぐ仲よくなって、スムーズにいくような状況で、ただ、大人たちはどうしても多少ライバル心もあったり、それぞれの50年60年たった、私たちが築き上げてきた学校という意識が強くなって、どうしてもなじめないというのが大人たちの状況なのかなと。私たちもすごくその辺は経験させていただきながら、本当に今現状、おかげさまで、小学校、中学校、10年たって、10周年の周年行事もできるようになってきました。当然、いわゆる学校の統合に関しては、総論は、恐らく皆さん賛成、ただ、各論になって自分たちが携わると、そこは反対というのが、これが今の実態かなというふうに私は思っております。

そんな思いも強く、是非、今日もそういった意

味で傍聴にたくさん見えてる、これしっかりと教育委員会が、今の姿勢はすごく私はいいいと思います。ただ、私たちの経験も生かして、今、中学校を先にやっていくというのは、これ鹿浜の経験かなと私も実感しています。そういうものをしっかりとお示して、今までの経験を生かして、私たちの意見もしっかりとまた伝えながら、しっかりやっていっていただきたいというのは、今、私の本心でございますので、是非その辺も含めて、学校運営部長、もう1回お願いいたします。

○学校運営部長 鹿浜委員がちょうど鹿浜地域でやったときに、私は何回か御答弁しましたけれども、課長として統合の方、携わせていただきました。本当に地域の皆さんに御協力いただいて、この事業を進められるなというふうに、本当に実感してるところでございます、もう10年前にはなるかと思っておりますけれども。本当に学校を愛していただいている皆さんから、なくさないでほしいという御意見いただいて、本当に心苦しい限りではあるのですが、やはり教育環境を整えたいという私たちも思いもありますので、本当に丁寧に説明させていただいて、皆さんの御意見を聞きながら、1人でも多く私どもの今回の計画の方を御理解いただけるように、引き続き努めてまいりたいというふうに思っております。

○鹿浜昭委員 是非よろしくお願ひしたいと思ひます。

それと、今の足立入谷小学校の件で、教育長に対してクエスチョンというか疑問を持ちちゃった点がありまして、今の適正規模で学習環境をしっかりと進めていくという、統合の理念ではないけれどもあるわけだね。それが、今1年生が4人、2年生が2人、これ学年行事とかというのは絶対できないよね。運動会だって何もできない。2人で何をやれという、せいぜい徒競走ぐらいかな。そういうような状況、これ緊急事態だと私は思うんです。やっぱりマストだよ、しなければなら

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

い、何とかしていかなくちやならないわけではないですか。地域の意見を聞いて、もしそれが問題があるようでしたら改革していくというのはちょっと違うかなというのが正直なところで。本当に今これを緊急事態、地域がどう思ってるかというのも当然あるかと思うので、その辺も含めながら、是非そこに注力して行っていただいて、何とか地域の皆さんが納得できるような体制を是非取ってもらいたい。いかがでしょうか。

○教育長 私の説明がすごく悪かったのかもしれませんが。決して緊急事態ではないと思っております。緊急事態だというふうに非常に感じておりまして、学校の方にもいろいろ何ができるかということは、まだ確定はしていないのですが、今検討しております。ですので、それをしっかり講じながら、今現状のこの人数の中で、何が一番ベストかということも検討しますし、できれば来年度以降、もっとお子さんが増えるような、何か魅力ある取組をした上で、結果として変わらなかったときには、またその辺も地域の方としっかりお話しをしながら、学校をどうしていくかということを検討していきたいという考えでございます。

○石毛かずあき委員長 他に質疑はございますか。

○中島こういちろう委員 私からも、竹の塚中学校と渕江中学校の統合に関してです。

今までの議論を含めて、どうしてもこういう議論をする際に、教育委員会の皆様は統合したい側というか、しようとする側で、地域の皆様に関しては、したくないというか、そういうお声が非常に多くなって、したくないというか、どうにかしたいというふうに思う側と、自分が通っていた学校、もしくは通っている学校がなくなってしまうというのは、やっぱり地域の方々からしても非常に大きな問題だと思いますし、その気持ちは私もすごい理解をします。

先ほどから議論を聞く中で、子どもの数が減る、あとは老朽化をしていくという、そういったいろ

いろな問題があって、統合に向けて考えていかなければいけないというのが教育委員会側の考えだと思うのですが、具体的に、子どもの数が減るというのはこのデータの中に示していただいているものではあると思うのですが、何がどれぐらい、どう困っていくのかというのが正しく地域の方により伝える必要があるのではないかなというふうに思っていて、例えば現状の老朽化の話でいくと、教育委員会としては適正規模化をしていきたいと、ただ、どんどん数がお互い減ってしまっているところでの問題意識だと思うのですが、具体的に何がどう困るのかをもうちょっと御説明いただきたいなと思うのですが、よろしいですか。

○学校適正配置担当課長 例えば、規模が少ないところだと、学年でクラス替えができなくなる状況が今後出てくるですとか、そうすると人間関係が固定化されてくる、そういったところのデメリットが出てくるかというふうに思っております。また、先ほど委員から御発言ありました、例えば学校の行事なんか規模が小さくまとまっています。今、部活は様々な取組もありますので、そこまで影響はないのかもしれませんが、ただ、例えば花畑の地域ですと、花畑中学校と花畑北中学校が両校で一つバスケットチームをつくって活動されているというようなところも聞きますので、そういったところで少し制限が掛かってしまうというところが、影響が出てくるものの一つかというふうに認識しております。

○中島こういちろう委員 今お話いただいているのは、何年後にどうなるかという話でいくと、何年後にというのは、今出しているデータは、今お子さんがこの地域で生まれている人数で把握されているものだと思うのですが、今おっしゃっていただいているのは、大体何年後の話になるのですか。

○学校適正配置担当課長 資料でお示ししてござい

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

す数字は両校が統合した数字でございますので、こちらは統合すると適正な規模に入っていきますので、今言ったような心配は、デメリットは生じないものというふうに考えてございます。

今現時点で、小規模状態の学校が竹の塚中学校であり、また、将来的に4歳以下では1学年当たり3学級以下になってしまう渚江中学校、こちらが小規模の傾向があるというところですので、そういったところが資料上はお見せをしているようなところがございます。

○中島こういちろう委員　なので、これ統合後のデータだと思うのですが、それを統合しないで、このまま両校を2つ存続させようとしたときには、片方ではこれぐらい少なくなってしまうとかという見立てもあるわけですよね。そういう認識でよろしいですか。

○学校適正配置担当課長　それをお示しをしておりますのが資料でいう真ん中の表になりまして、真ん中の表の水色の数字が渚江中学校の今後の推移を表しておりますが、上のオレンジの数字が竹の塚中学校の推移を表していますが、どちらも右肩でどんどん下がっていくようなところになりますので、先ほど申し上げた渚江中学校のところで言いますと、4歳のところで100人を切りますので、そこから小規模になっていくというところで、そこで小規模で出てくるようなデメリットが生まれてくるというふうに見込んでいるところがございます。

○中島こういちろう委員　今、令和17年度までのデータを出していただいているところのお話をさせていただいていると思うのですが、この先も、つまり教育委員会の方ではしっかりと考えられていて、数が全く届かなくなってしまうような、そういうデータもあるという認識でいいですか。

○学校適正配置担当課長　この資料でお示ししておりますのは住民記録台帳上の数字でございまして、現時点で把握ができる実数の数字で数値をつくっ

ております。この先については、人口推計の方で★★を取って将来の方は見ておりますが、令和46年に掛けて右肩で下がってきてしまうというところを把握しているところでございます。

○中島こういちろう委員　どうしても、先ほど鹿浜委員の話でもありましたけれども、総論、賛成、各論、反対の議論をするときに、より将来がどうなるかというのを、これ2017年なのかな、令和17年度までのデータ出してもらってますけれども、その先に行くと、もっとクラスが、例えば10クラスになってしまうとか、そういうのが多分出てくるわけですよね、きっと未来に行くと。だからこそ先に手を打っていかなくちゃいけないというので今議論をしていると、そういうふうには認識をしているのですが、それ正しいですか。

○学校運営部長　今、担当課長御答弁いたしましたとおり、この3ページの真ん中の表というのは、実際の住民基本台帳に今、もう既にいる1歳児のお子さんの数を数えています。

ここから右のところというのは、実は我々も数字を押さえたのですけれども、あくまで人口推計の基になってくる。ただ、人口推計は、実はこの学区域の中でどれぐらい増えるとか減るのかという具体的な数値はまだ出せない状況だということですので、今手元にある情報で、確からしいものをこの表の中に入れていただいているということで、傾向としては多分こういった傾向が続くのではないかなというふうに思っておるところでございます。

○中島こういちろう委員　ただ、足立区全体の人口推計の中で子どもが少子化で減っているという状況を踏まえると、その地域単独での数は出ないとは思いますが、2050年、2060年のタイミングでは、これぐらい全体になるという、そういったところまでは、その地域はもちろん出せないと思うのですが、そこに傾斜をかけて、そのエリアでの子どもの数というのは一定数

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

考えられるのではないかな、推計はできるのではないかなというふうに思うのですけれども、どうなのでしょう。

- 学校適正配置担当課長 ガイドラインの方にお示しをさせていただいておりますが、年少人口、全体の数になりますけれども、令和12年度に一番子どもが減り、一時的には増えるものの、令和7年で7万1,000人強だったところが令和46年には6万人に減ってくると、区全体で、というような数字はお出しをしているところで、把握しているところでございます。
- 中島こういちろう委員 そうすると、この地域のことはもちろん分からないけれども、いわゆる建て替えてかもあるものの、一定数どこの地域もそうだけれども減っていくと。減っていった先にどうなるかという形の未来の絵をなるべく細かくお伝えいただくことは、私は大事なのではないかなというふうに思っていて、というのが、先ほど来の話もありますけれども、やっぱりなくなってほしくないと思うのは皆さん地域の方々がそう思われる気持ちもすごいですし、ただ、未来を考えると、実際30年後には子どもたちがこれだけ少なくなってしまう可能性が非常に高い。そういったところの議論を進めた上で、やっぱり御理解をいただくというところが必要になってくるのではないかなというふうに思いますので、是非そういったところは地域の方含めてしっかりと伝えていただきたいというふうに思いますし、また、災害時には避難所にもなる学校をなくさないでほしいということで5番目のところに記載がありまして、備蓄倉庫の拡充などをしていきますよというふうに御説明いただいておりますけれども、やっぱり2つ学校があったところが1つにまとまると、それぞれそこに避難されていた方はどうするのだ、そういったところの御心配も出てくると思うのですよね。そこは、やはり地域の方々からすると、避難所は非常に大事な部分になるというのは一番

のところだと思いますので、そういう意味でもやっぱり丁寧に引き続き御説明いただくしかないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

- 学校適正配置担当課長 避難所の件につきましては、地域の皆様、非常に関心の高いところかと思っております。ガイドラインを策定するときから、案を作成するときから区内危機管理部災害対策課とは情報共有をしておりますし、地域からこういう声がいただいたというところも、常に、密に情報共有はしているところですので、この先、統合地域協議会の場で、こちらの案が成案化されて、具体的なスケジュールが決まってきた際には、そういった具体的な避難所の機能をどうするのかといったところについてもお示しができるように、関係所管と連携して取り組んでいきたいというふうに考えてございます。
- 石毛かずあき委員長 他に質疑はございますか。  
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 石毛かずあき委員長 質疑なしと認めます。
- 区議会事務局次長 先ほど水野委員から御質問がありました点について御答弁いたします。  
本陳情に寄せられた511名の方の御署名のうち、湊江中学校、竹の塚中学校の学区域にお住まいの方131名ということで、約4分の1ということで確認してございます。
- 石毛かずあき委員長 次に、各会派から意見を求めます。
- 水野あゆみ委員 様々議論がございましたが、本当に地域の方にとっては大切な学校であります。また、区としては進めていかなければいけない、適正規模・適正配置だとも思っておりますので、しっかり御意見伺いながら、折衷点を取っていただいて、やっていっていただきたいなというふうに思います。  
また、統合といっても、なくなるというよりかは新しい学校にリニューアルオープンするのだということで、そのまま今までの竹の塚中学校もず

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

っと続いていくという感じで思っていたきたいなというふうに個人的には思います。新しい学校を見たときに、本当に皆さん、よかったなというふうに思われるような取組もしていただきたいですし、また、避難所機能についてもしっかり確保して行って、地域の皆さんの安心・安全に期していただきたいなというふうに思います。

しっかり検討を進めていただきたいと思いますので、継続をお願いいたします。

○鹿浜昭委員 先ほどお話したとおり、地域の要望等もしっかり聞きながら進めていっていただきたい。また、拙速には絶対進めないでいただきたいという要望も含めて、継続をお願いします。

○小林ともよ委員 区も当初反対の声が大きければ進められませんかと言っていたわけですから、今、反対の声どんどん大きくなっていることも実感しております。この陳情のとおり統合を中止し、両校とも存続させるべきと考えますので、採択をお願いします。

○中島こういちろう委員 今後も議論を引き続き進めていく必要があると思いますので、継続をお願いします。

○石毛かずあき委員長 それでは、これより採決いたします。

本件は、継続審査とすることに賛成の方の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○石毛かずあき委員長 賛成多数であります。よって、継続審査と決定をいたしました。

以下の審査に直接担当でない執行機関の退席を認めます。

[執行機関一部退席]



○石毛かずあき委員長 それでは次に、所管事務の調査を議題といたします。

学校ICTに関する調査についてを単独議題といたします。

何か質疑はございますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○石毛かずあき委員長 質疑なしと認めます。



○石毛かずあき委員長 それでは次に、報告事項を議題といたします。

(1) から (3)、以上3件を教育指導部長から、また、(7) から (11) を、以上5件を学校運営部長から報告をお願いいたします。

○教育指導部長 報告資料2ページをお開きください。

足立はばたき塾の令和7年度の進学状況についての御報告になります。

件名、所管部課名は記載のとおりでございます。項番1の表に記載のとおり、今年度は、左から進学指導重点校等とまとめておりますけれども、過去5年の中で比較しても、非常に良好な成績が得られてございます。

また、3ページの表にあるとおり、第1志望は8割を超えている状況でございます。

令和8年度の、今年度の実施状況でございますけれども、まず4月の初回から55名の体制でスタートしております。引き続き2次募集もしながら進めているといった状況でございます。

続きまして、4ページになります。

区学力調査の実施方法の変更についての御報告になります。

件名、所管部課名記載のとおりでございます。コンピュータベースドテスト、CBTと言われているものなんですけれども、これを令和9年度から導入に向けて検討を進めてまいります。

CBT化による主な変更点は工番1の表に記載のとおりでございます。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

また、項番2に、主な効果、有用性書いてありますけれども、速やかな結果分析が可能になるので、つまずきの予防早期解消に、早期に着手することが可能になるのですとか、アニメーションなどが活用できれば、従来のペーパーテストでは計れなかった資質能力の測定も可能になるといった、ここは一般論で書かせていただいております。あくまでもこれは一般論でございますので、テスト開発事業者がどのようなものが提供されるのかによって異なってまいりますので、そのあたりは今後見極めが必要だというふうに考えております。

5ページの項番3で、主な懸念事項として表にまとめさせていただきました。

昨年度、数校でモデル的に実証実験取り組んでみましたけれども、やはり低学年にはタブレット操作はちょっとそぐわないといったところですか、キーボード操作に特殊な記号を入れる場合には何が必要である等々記載しております。

今後の方針でございますけれども、令和9年度に導入できるかどうか、まずは6月までに判断をして準備を進めていきたいと考えているところでございます。

続きまして、6ページになります。

あだち日本語学習ルームの日本語指導の状況についてでございます。

件名、所管部課名は記載のとおりでございます。

項番1に令和7年度の通室の状況を記載しております。

項番2に第3学年の昨年度の状況を記載しております。

(1) 指導時間ですけれども、平均で182時間要しているところ、最大の生徒では300時間を超えるような指導もありました。

卒業後の進路については(2)の表に記載のとおりでございます。

7ページ、項番4に課題と今後の方針を記載させていただきます。このところ非常に対象

生徒が増えておりますので、令和7年度においては、令和6年度比1.4倍という状況でございます。そういったことも踏まえまして、今年度4月から竹の塚小学校に新たに日本語学習ルームを新設したところでございます。

また、イのところに記載しておりますが、聞く・話すの2技能については割と日常生活の活用につながられているところでございますけれども、読む・書くの2技能についてはなかなか定着には時間が掛かるといったところもありますので、今後の方針を記載しておりますが、令和9年4月に向けて固定学級である日本語指導学級開設に向けて都教委と調整してまいります。

私からは以上でございます。

○学校運営部長 恐れ入ります、引き続き、文教委員会の報告資料の14ページをお開きください。

件名、所管部課名は記載のとおりでございます。内容は、興本扇学園の建て替えを実施いたしますので、その設計委託等のプロポーザルの選定委員会を開きたいという内容でございます。

項番3番で、業務委託期間については今年の11月から、選定委員の構成については項番4で、計5名の体制で実施したいと思っております。5番には今後のスケジュールの記載をさせていただいております。

続きまして、15ページに移ります。

件名は、足立区学校施設の個別計画の1の改訂版の策定をいたしましたので、その御報告でございます。

先ほど水野委員からも御質問がありましたけれども、内容については項番2のところで書いてありますが、今回、耐用年数評価というのを導入をいたしました。従来は地震発生時の耐震性能を主眼に置いて個別計画を立てておりましたけれども、今回、この耐用年数評価を実施したことによって、学校施設の使用の期間が、構造部材に問題がなければ最長20年まで延長ができるというようなこ

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

とが建築業界の方でお話ありましたので、そういったものを反映させていただいております。

それに基づいて、前回の計画から改築あるいは大規模改修の実施計画の改定の方をさせていただいたところでございます。

詳細については別添で資料を付けさせていただいておりますが、概要については16ページで内容の方を示させていただいております。

次に、17ページに移ります。

令和7年度、昨年度の生活習慣病の取組結果についてでございます。

1番は貧血・小児生活習慣病の予防検診、項番1番が小学校、項番2番が中学校ということで記載をしております。

検診対象者は、小学校については小学5年生、こちらは肥満度がプラスマイナス20%、ちょっと怪しいなというお子さんに受診勧奨をするというような中身でございます。また、6年生は、前年度5年生のときに課題のあったお子さんについて、受診してくれということをお願いをしている中身でございます。

したがって、(2)のところでは健診結果書書いておりますが、小学5年生について対象者数が多いので5,000人を超えておりますけれども、受診率としては5.3%。怪しいと言うんですね、指導が必要かもしれないお子さんたちに声を掛けておりますので、要医学的管理等の割合もおのずと増えてくるというような数値になっております。

18ページの中段ぐらいに、片仮名のイで小学校6年生の状況の方を記載をさせていただいております。

また、中学生については19ページに記載しております。中学2年生については、基本的に保護者の同意があるお子さんについては全員受けていただいているということで、受診率は大体80%をキープしているような状況でございます。また、

先ほどの小学校5年生、6年生と同様に、前年度課題のあったお子さんについても、3年生になった際に検診を受けていただくような立て付けをしております。

それから、20ページ以降にその結果の方を載せております。

次に、21ページの方で、交番3番ということで生活アンケート、小学生、中学生に取っております。回答80%程度を超えているような状況です。特に小学生では、内容については、朝食を食べる割合は全体の9割を下回っている、10人に1人は食べていないというような状況が見えてきております。また、いわゆるスマホ・タブレット等を1日3時間以上使うお子さんが3割となっているようなことが見えてきております。

また、22ページについては、中学2年生のアンケートの状況でございます。片仮名のア、イということで、朝食と肥満の関係、それから運動と肥満の関係の方をグラフ化をさせていただいております。

また、23ページです。

項番4番、主な生活習慣病予防の取組ということで、(1)から(3)まで、小学校においては出前教室、それから、中学生においては、検診の前に事前の指導及び事後指導の方を取り組ませていただいております。そのほか、生活習慣病の講演会、個別相談会の方も実施しているという中身の報告でございます。

次が25ページをお開きください。

件名、所管部課名は記載のとおりでございます。給食費の無償化の関係でございます。

給食費の無償化については既に令和5年度から実施をしているところでございますが、現時点では校長の私費会計的な支払いということで、早急に公会計化に向けた取組が必要ということで、その中の取組の中身です。

モデル実施ということで、今年度、小学校1校、

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

中学校1校、項番3に記載しておりますけれども、取組をさせていただきたいと思っております。

先ほどお話ししたとおり、校長の私費会計ということから公会計に替えますので、いわゆる事務的な部分ですが、予算の科目の方が変更にしてあるというようなことを、25ページの下には記載をいたしました。

また、公会計化によるフローの方も書かせていただいております。こちら、今までは学校が食材事業者と契約支払いというのを直接行っていた、いわゆる私費会計的な扱いだったのですが、今後は区、具体的に言うと学務課が支払い契約の方を取り組んでいくというようなことに変更させていただきたいと思っております。

地元の食材業者等にあまり大きな変更をして負担がかからないよう視点を置いて、今回の公会計化の取組をさせていただきたいと思っております。実際、今年度2校ですけれども、全体で100校ありますので、一遍に全部を変えるというのはなかなか難しいかな、数年に掛けて、順次やらせていただきたいというふうに思っているところでございます。

それから、27ページをお開きください。

コミュニティ・スクール導入の計画を策定しましたので、その報告でございます。

現在、全体で13校がコミュニティ・スクールとなっておりますけれども、私どもの方も、できる限りコミュニティ・スクール化を進めていきたいということで、目標としては各校1校という目標で、なかなかそれも手が挙がるのを待って取り組んでいたというようなことで、なかなか手が挙がらないという状況ではございましたが、今回、国の補助金の方がコミュニティ・スクール40%全体で達していないと補助金の対象とならないというお話がありましたので、こういったきっかけに基づいてコミュニティ・スクール化の方を加速したいというふうに思っております。その内容とし

て、今回、計画の方を策定をいたしました。

項番2番のところでは計画の構成部分、それから主な内容を項番3で頭出しをさせていただいたところでございます。

具体的には別添の資料の方をお目通しいただければというふうに思います。

私からは以上でございます。

○石毛かずあき委員長 それでは、何か質疑はございますか。

○小林ともよ委員 足立区の学力定着に関する総合調査の実施方式の変更について伺いたいと思います。

今回の報告は、国の学力調査の方が令和9年からCBT化されることから、区独自の学力調査もCBT化していく、検討するという報告だと思っておりますが、実証実験は何年生で行ったのでしょうか。

○学力定着推進課長 実証実験の方は令和7年度にやらせていただきまして、小学校4校で小学校5年生、中学校2校で中学校2年生を対象にやらせていただきました。

○小林ともよ委員 この中で、実証実験を行った児童・生徒のアンケートで、結果では8割以上が不安はないと回答したということがあるのですが、2割の子どもたちは不安があったということですね。5年生でも不安を感じているというわけですから、通常の授業内で力を付けていくことを基本として、CBTに対応するためにタイピングばかりに力を入れていくような授業になることはあってはならないと思うのですが、その点いかがでしょうか。

○学力定着推進課長 学力テストのための活用能力の育成ではなくて、それぞれの学年、発達段階に応じた情報活用能力の育成を図りながら、その能力に応じた形で調査を実施してまいりたいと思っております。

○小林ともよ委員 今回の報告ですと、3年生までは単元ごとのテストできめ細かく学力の定着を図

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

れるか継続して検証していくということでありまして、C B Tは低学年の子どもたちにはやらないということだと思っておりますが、その辺いかがですか。それでよろしいですか。

- 学力定着推進課長 こちらも実施する事業者によって考え方まちまちではあるのですが、基本的に小学校3年生までであると、正確な学力をはかるだけの情報活用能力がないのではないかと聞いたところで、今回4年生以上という形で考えるところがございます。
- 小林ともよ委員 5年生でも不安があるという子どもたちが2割以上いるということで、4年生も、できれば不安なく過ごしていただきたいというか、本来、これから小学校3年生以下の子どもたちにやるように、単元ごとにきめ細かく定着が図れる、小さいテストを繰り返していくことの方が私は重要だと思っているのですね。  
来年度は従来のような学力調査として扱うのではなく、点数を気にせず試してみる程度にとどめることが必要だと思いますが、その点いかがでしょうか。
- 学力定着推進課長 これまでの紙のテストでもそうございましたけれども、前年度のつまづきを確認できるような形で、無理のない形で実施をできればというふうに思っております。
- 小林ともよ委員 ただ、ちゃんと学力がきちんと図れるかどうかというのはやってみなければ分かりませんので、そこまで、今までどおりに頑張れというのはちょっと難しいかなと思うのですね。  
教員の採点の負担を減らすためという目的もあると思うのですが、端末を充電しておかなきゃならないですとか、様々、教員の負担もまた増えるということも考えられますが、その点いかがでしょうか。
- 学力定着推進課長 今回の実証実験の中において、そちらの基金の準備段階の負担も含めてですけれども確認をさせていただきました。通常の事業で

もタブレット端末使用しておりますけれども、その準備と同じような用意で、十分にテストの方は賄えるものということが確認されております。

- 小林ともよ委員 あと、今、英語のスピーキングテストというのはタブレットを使ってやってるテストだと思うのですが、これが試験当日になるとタブレットが動かなくなるというようなことが起きたりとか、様々トラブルが起きることが報告されております。  
こういったことも起きるのではないかと懸念があると思いますが、その点はいかがでしょうか。
- 学力定着推進課長 今回、実証実験を行った事業者の中には、そういった音声を使うC B Tもございました。それについても、小林委員と同じような懸念は私たちも思っております、確認をさせていただきましたけれども、その実証実験におきましては特に大きな支障はなかったという結果でございます。
- 小林ともよ委員 様々なトラブルが考えられるということで、他の自治体の動向も見て、この辺を慎重にしていきたいと思うのですね。  
導入した場合の予算はどれぐらいだと試算しているのか。前回ですかね、以前報告があったと思いますが、念のため確認です。
- 学力定着推進課長 まだプロポーザルの前段階でございます、本当にざっくりとした見積りでございますけれども、現在、ペーパーテストでやっている委託費用の方が約5,400万円程度、C B Tになりましても500万円程度というふうに見込んでおります。
- 小林ともよ委員 なるべく、この際ですから、C B T化という方向に進む、進むというか、もう国の方は進むわけですが、子どもたちに対してのテストは先生がつくった小テストなどで細かく定着を図っていくべきだと思います。
- 石毛かずあき委員長 他に質疑はございますか。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

○鹿浜昭委員 私から3点ほど。

初めに、はばたき塾の件なんですけれども、今回、第1次募集で55人で、多分定員は100人だったかと思うのだけれども、半分ちょっとぐらいいになっちゃったので、ここ数年、私、チェックしてなかったのですが、例年こんな感じになっているのですか、今は。

○学力定着推進課長 実は今年度募集の段階で、定員100名を切った応募だったのは今年度が初めてございまして、今年度、例年よりも少なかったかなというところがございます。

また、その後、所得審査等において人数が制限されたことによって、今55名といった人数になってございます。

○鹿浜昭委員 そうすると、多少人気なくなったといったら語弊あるのだけれども、原因なんかはつかんでいますか。

○学力定着推進課長 細かく調査したわけではないのですが、これまでのはばたき塾、やっぱり経済的困難な御家庭のお子さんを塾で入っていたわけでございますけれども、都立用の塾のようなイメージを持たれてるところが一つあるのかなといった中で、私立高校の授業の無料化であったりとか、あるいは足立区全体の所得のところ若干好転しているのかなといった、そういった印象は持っております。

○鹿浜昭委員 確かに、時代から若干マッチしてない感を受けたという感じでいいんですね。

それで私ちょっと思ったのが、以前はすごい人気で、もう何年たつのかな、15期生だから15年たつんだね。すごい人気で、授業なんかもうすごく熱心だった記憶があるのですが、ここに来て、若干、進学先が都立の難関校だけに絞られてきたというのが問題点かなというふうに思うので、そうすると、難関校ですごく進学率はいいかなというふうには思うのだけれども、いい面だけ捉えたらそうなんですけれども、今後の方向性と

して、塾生に対して、すごく宿題が多くて、ちょっと負荷に感じて、子どもたちも途中で挫折しちゃう子どもも何人か今までいたわけではないですか。その辺の外部委託も12年目になってはいますが、若干その辺も考慮しながら、少し改善をしていただきたいなと思うのですが、いかがでしょうか。

○学力定着推進課長 鹿浜委員御指摘のとおり、時代も変わってきておりますので、それぞれの事業の見直しは当然必要かというふうに思っております。

また、このはばたき塾、鹿浜委員も御案内だと思うのですが、高校受験がゴールではなくて、大学受験を見据えた指導という形でやらせていただいております。当然、高校入ってから理科学科、社会はやりますし、そこに勝ち得るための資質というか忍耐力、そういったものを付けるところも目的の一つでありますので、また、今年度、市立の難関校も4人入学できてございまして、私立の入学にも十分耐え得る塾でございますので、今後、PRの仕方を、その辺も含めて、大学を見据えた、私立にも耐え得る塾ですよということで募集の方は掛けてまいりたいと思っております。

○鹿浜昭委員 是非そういった意味で魅力あるはばたき塾にしていただきたいたいという気持ちがあるので、その辺含めてよろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、学校給食の公会計化なんですけれども、鹿浜未来小学校の校長先生にも若干意見聞かせていただいたんですけども、大変ありがたいという評価なんです。まだ4月から始まったばかりで何とも言えないのですが、通常、学校は102校あるところで、校長先生のところに業者さんが4月の時点で一斉に来るらしいんですよ。十何社だか分からないのですが、そのたびに全部を判こを押すそうですね、1年間の契約に対して。すごく校長先生としては大変だというよ

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

うな意見があつて、今年はそれが全然なくなったので、すごくありがたいという話だったので、そういう意味で地域の農家の方々からの野菜のあれは特に問題はないというようなお話もあるので、是非、早めに全校実施を進めていっていただきたいと、これは要望でお願いしたいと思います。

それと、足立区コミュニティ・スクールの導入計画の策定なんですけれども、先ほど学校運営部長も40%コミュニティ・スクールを確保しないと国の補助金が出ないということなんですけれども、簡単に逆算すると、3年後に41校までなくちゃいけない。そうすると、3年間でだから、十三、四校ずつやっっていかなきゃならないというような、ある程度使命感も持ちながら進めていかなければならないのかなというふうに思うんですけれども、今までの流れからすると、いまだに13校、年に1校ずつ増やしていくというような約束も守られていない現状の中で、その辺はしっかりと進めていっていただきたいというのは、私要望なんですけれども。

やっぱりネックとなるのは当然開かれた学校づくり協議会があつて、その上にCS型開かれた学校ということで、CS型も含めて、各学校13校のところは二つの組織があるような形で現実あるかと思うんですけれども、それを、当然、開かれ、私、いつも委員会でも話すんですけれども、もう平成14年から進めて、もうお役御免という話はずっとさせていただいているんですけれども、この13校ずつ増やしていくというのは、計画はしっかりできているのでしょうか。

- 青少年課長 今回お示ししたのがその計画になります。別添資料を御覧いただきたいのですが、別添資料の14ページですね。令和8年、令和9年、令和10年というところで、令和9年度末に、今、開かれた学校づくり協議会の中で役員会のある協議会、これが約40ありますので、令和9年度末にはこの40をCS化することで、令

和10年度頭の段階でCS校50校程度というところで40%を達成しようというところになっております。

- 鹿浜昭委員 役員会あるところが40校あるということで、当然、会長あつて副会長あつてと、組織は成り立ってるかと思うんですよね。

そうすると、今のコミュニティ・スクールをつくるという、形としては、開かれは存続していくという考えなの。

- 青少年課長 平成23年からこの開かれた学校づくり協議会型コミュニティ・スクールを進めてまいりました。開かれは存続しながら、その開かれの役員会にコミュニティ・スクールの機能を付加していくということで認識しております。

- 鹿浜昭委員 その考えが間違いなんですよ。だからできてないんでしょう、年1校ずつ増やしていくと言っている。違いますか。

- 青少年課長 これまでは各協議会での自発的なところでコミュニティ・スクール化をしてきたところでございますが、今回、国の指針を受けまして、今回計画をつくりまして、これに基づきまして、これまでの取組を加速していくというようなところで考えております。

- 鹿浜昭委員 それは分かるけれども、地域の開かれの会長さんたちは、それでやめちゃった学校も何校かあるわけではないですか、今までだって。3校ぐらいあるのかな。もう大変でやってられない。その辺の考えを一新しなくちゃ今後進めていけないと思うんです、私。この辺の計画はいいけれども、やっぱり2つの協議体を設けていくというのは、地域としては大変なんですよ。

コミュニティ・スクール、今2,000円ずつもらってるのかな、1回出ると。それだけの負担もやっぱり掛かっちゃうし、これはもう勘弁ということで、多分3校ぐらいあったかな、やめちゃったところ。あるかと思うので、その辺をちょっと考え方を考えていただきたいというふうに思う

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

んです。

○学校運営部長 本日に鹿浜委員の御発言のとおり、同様な学校に対する学校運営協議会と開かれてというようなものがあって、御負担になってるのもすごく感じてるところです。ですので、いずれはこれをどんな形で、統合なのか、形はちょっと検討はしていかなくちやいけないなと思っています。

まずは、3年間はコミュニティ・スクールになるように、学校運営協議会をまず増やしていくという取組に特化をさせていただいて、そこで40%できたら次のフェーズでやれたらなというふうには思っているところでございます。

なかなか一遍に、100校あるので、全部やめてこっちに移るといのは、なかなか作業もかなりいるなというふうに思っているので、少し時間をいただきたいと思っています。

○教育長 今後の絵は、実はこの計画の中の11ページに絵があります。今は開かれで、これを全部網羅してるような考え方なんですけれども、実際に学校運営協議会ができたときは15名という規模になりますので、今の役員会の数を大分縮小した形で学校とのいろいろな企画をしていただく。今、放課後子ども教室とか、様々子どもたちのためにやっていただいている事業については、実は下の部分の地域学校共同活動という形で、そこは少し切離れた形で、それぞれ連携しながらやるという絵が、これ国の絵です。これを開かれで、どのように役割を分けながら、できる限りスリム化と言ったらいいのか、負担が掛からないように移行していこうというのが今この計画でございますので、それは地域といろいろ相談しながら、ベストな形にしていきたいと思っています。

○鹿浜昭委員 開かれの協議会会長会もまだあるかと思うので、是非その辺は、今の現場の声しっかり聞いていただいて、負担のないような形で、もう協力体制はしっかり皆さん持っていると思うので、是非、前向きな意見等も聞きながら、今後柔軟に

進めていっていただきたいというふうに思うので、やはり足立区、五反野小学校がああいう形で進んで、全国的にも当時有名になって、コミュニティ・スクール、また、民間の校長さんも導入しながら進めていって来たけれども、なかなかやっぱり難しかったというのが現状だというふうに思うし、地域の人たちに背伸びばかりさせちゃうと長く続かないというのが現状だと思いますので、是非その辺はよろしくお願ひしたいと思ひます。

それと、あと、コミュニティ・スクールのメリット、これをしっかり明確にしていって、進めていっていただきたいなというふうに思ひます。学校運営に対しても意見言えるとか、教職員の任用に対しても、これもしっかり組織というか、これは開かれと違う形だと思うので、12ページにある任命権者に意見を述べるができるというのは、この任命権者というのは、いわゆる区教委ではなくて都教委かなというふうに思うのですけれども、その辺はいかがでしょうか。

○青少年課長 鹿浜委員御発言のとおり、都教委になります。

○鹿浜昭委員 そういうのを、開かれは区教委を通して都教委へ言っているわけですね。違いがあるわけですね、開かれとコミュニティ・スクールの。そういうものをしっかり、学校の先生に対してはいろいろな意見、結構PTAの方々から聞いたり、皆さんすごく関心を持っているのは事実だと思うので、そういうものを今度コミュニティ・スクールはこういう形でやっていけますよということを、そのメリットをしっかりと開かれの方に話していただいて、進めていっていただきたいと、要望でございますので、是非よろしくお願ひいたします。

○しづや竜一委員 今の鹿浜委員のところ、私もCSのところでお聞きしたかった。鹿浜委員とほぼ同様のところで、やはりこの別添資料にもありますように、私も今、開かれの協議委員のメンバー

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

として、もう三、四年携わらせていただいている地域の1人でございますので、やっぱりCSの話が出たときに、その線引きというか、何ができるのかなど、知ってる人はもちろん、地域の方が開かれの協議会というのは、ずっとその地域で学校に携わってくださってる方々がほとんど協議会のメンバーに選ばれるわけですから、間違いなくそういったメリットであったりとか、先ほど鹿浜委員が言ったように、都教委に直接、何かあれば意見を言えるような形というところもあったのですけれども、ただ一方で、やはり開かれの協議会の方々も、今、どのタイミングで、例えばなんですけれども、5月、もう人事が変わって、PTAの役員の方々も変わってます。そういったところで、開かれの協議会が、ほとんど足立区の区内の学校でも協議会が第1回がもう開催される時期なのかなと思うのですけれども、既にそこで、区の中では、もうこのCSの導入について開かれた中でも協議をする、また伝えていくというような認識でよろしいのか、そこをお伺いしたいのですけれども。

○青少年課長 今年2月に開かれの会長会の集まる会議がありまして、そこで今回の計画が、40%を達成するというのが求められるところを説明しました。その中では、開かれの役員会とCSは機能的には似てるよね、置き換えるということであれば納得ができるというようなお声もいただいておりますので、一方で、不安な声も、事務処理が増えるのではないかとかというところもありますので、その辺の声を聞きながら対応はしていきたいと思います。

今年度、5月、6月で第1回目開催が多くなりますので、そこでも区の職員まいりますので、そこでまた御不安な点等があればお答えしていきたいと考えております。

○しぶや竜一委員 分かりました。ありがとうございます。であれば安心したのですけれども、やっ

ぱりそういうのが後手後手になってしまうと、またどんどん遅れてしまうのかなというのもありますし、今、先ほど鹿浜委員が言ったように、そういったところの、先ほどのメリットも併せてなるべく伝えられるように、皆さんが1回1回開かれに行くというのは大変かと思うのですけれども、本当そういった気持ちで、是非ともやっていただければと思います。よろしくお願いたします。

あと2点、生活習慣病の予防のところ、貧血・小児生活習慣予防の健診のところ、先日の第1回定例会の、私の一般質問でも、小児の糖尿病のところについて学務課長と相談して、いろいろ質問させていただいた経緯もあったので、このデータを見て少し気になったところがあって、22ページのイのところ、運動をほぼ毎日している生徒の方が標準体重の割合が多く、肥満の割合が少なかったというところで、これは当然なのかなというところで、ヘモグロビンA1cのところ、5.6以上のところは運動している生徒の方が割合も低いかなというところ、している方が高いというのはもちろん当然なんですけれども、この後の、また、運動していない生徒の方が痩せの割合が高かったというところがすごい気になりました、というのは、痩せというところが、肥満とまたちょっと違ったところの視点で考えると、私もこれまでいろいろ地域に携わっていると、痩せというところで、例えば不登校のところにももちろんつながってきたりとか、虐待のところであったりとか、心身ともにいろいろ考えていかなければいけないことなのかなというところが、当然、教育委員会としても、そこは重点を置いているのかなと思うのですけれども、そういったところにも、もちろん肥満のところには、どんどんこういったところに対してはアプローチをしていくのですけれども、この痩せというところに対しても、もうちょっと明確なデータであったりとか、そういったところも今後は取っていただきたいのか

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

など思うのですけれども、その点についていかがですか。

- 学務課長 瘦せにつきましては、中学生ぐらいになりますと体系を気にして、特に女子なんですけれども朝御飯を抜いたりですとか、そういったことがまず主な原因として考えられるかと思えます。

この生活習慣病の予防健診については、まずは実態把握ということと、事前指導と事後指導というところで、まずは早いうちから自分の体に関心を持ってもらうということを大事にしておりますので、そういった視点でやっていけたらというふうに考えているところです。

- しづや竜一委員 自分の専門的な話になってしまうのですけれども、朝御飯を決して抜いたからといって、逆に朝御飯を抜いた方が体系というのは変わってきてしまうところが多いので、そういった間違っただけの解釈をしてしまうということが、やはり子どもの健康面には果たしてよくないのかなと思えますので、そういったところはしっかりと進めていっていただければと思います。

最後なんですけれども、学校の足立区学校施設の個別計画のところ、学校大規模改修が我々の地域の地域の学校でも今進んでいる状況でございます。今、進んでいる中で、いろいろまた地域の方々からの声が出ているのが、大きな事業であることにもかかわらず、やっぱりこの説明のタイミングといますか、私どももそうなんですけれども、学校の、なかなか今の時点で、スケジュールとかの段階で、早い段階、遅い段階と入れ替わる部分も多少今あるタイミング、時期になってきちゃったのかなというところもあると思うのですけれども、やっぱり大きく学校の規模改修をやることによって、イベントであったりとか、例えば今回で言いますと、運動会が10月にずれるというところが、今、多分、足立区の教育委員会の中からもいろいろ指導があったりとかで、熱中症対策とかも踏まえて入れ替わったりすると、やっ

ぱりそこで苦労するのは、そこで考えていたPTAの役員の方々、開かれの、さっき言った協議会の方々、意外とというよりも、かなり苦労している声を聞きます。というのは、もっと早い段階でスケジュールとかを組みたい。また今度、総会等とかいろいろあるので、そういったところで、学校の建て替え等だったりとか、建て替えというか大規模改修ですよ、改修のときに、やっぱり校庭が半分使えなくなったりとか、そういったその他安全面を考えると、今までやっていた行事ができなくなってしまって、例えば自分の母校であると、運動会もほかのグラウンドを借りなきゃいけないなくなってしまっているという、そのような状況に今なってしまうます。

やっぱり説明プロセスのルール化というところではないのですけれども、どこまで、その合意形成の観点からいって説明を、その地域の方々に、どのタイミングでというのは、ルール化というのは区教委としてどのようになっているのかということも、自分もまだ把握はできてなかったもので、その辺も踏まえて、地域の方々にはなるべく早い段階で、ちょっとずれても間違ってもいいと思うので、早い段階で大体のスケジュール感は伝えてあげていた方が今後はいいのかなと思うのですけれども、その点についていかがですか。

- 学校施設管理課長 しづや委員おっしゃるとおり、スケジュールが見えないと予定が立たないというところがありますので、しっかりとこちらの方で早め早めの、分かっているような工事ですとか、期間ですとか、内容、そういったものはしっかりと、学校も含めて地域の方には早め早めの説明をしていきたいと考えてございます。

- しづや竜一委員 是非ともよろしく申し上げます。学校と十分に連携を、更に重ねて、説明機会の確保といった、教育活動への影響を踏まえたスケジュールの共有のルール化を、ルール化といいますか、是非とも地域に伝えていただければと思

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ますので、よろしくお願いいたします。

○水野あゆみ委員 私からも何点か伺いをいたします。

学校給食費の公会計化についてでありますけれども、モデル実施をされるということで、私も近隣の校長等々お話ししたときに、本当にありがたいというお話でありました。

けれども、今回、モデル校2校やっていただいて、来年度全校やるのかなと思いきや、そうではないようなお話でありますけれども、一気にできない課題はどういうことなのでしょう。

○学務課長 まずは業務量が、支払いの件数が、今までは学校で契約したりですとか、支出をしていたものが一気に集中しますのです、その人員確保というところが1つあるかと思えます。

それ以外ですと、契約の種類というところで、随意契約というものがやはり必要になるのですけれども、そのあたり、生鮮食品はクリアできそうだなというようなところから、まずは今丁寧に進めていった方がいいという監査委員の御意見もありましたので、少しずつ今年2校で、モデルでやってみた感触を確かめながら、次の年度に進みたいという考えでございます。

○水野あゆみ委員 随意契約もそうですけれども、区が入ることによって、様々な小さい八百屋ですとかお肉屋が使ってもらえなくなったら、また元も子もない話ですのです、そういったことがないようにしていただきたいと思います、人員確保については、教育現場が本当に大変だということにおいて、働き方改革の一環にもなるものなので、しっかり人員確保、教育委員会の方でしていただきたいと思うのですが、こういった支払いについても様々、AI使ったり、いろいろな革新的な進歩もあるので、そういったところも是非この1年間でやっていくべきと思いますが、その辺いかがでしょうか。

○学務課長 人員確保については、今、水野委員か

ら御提案いただいたように、様々な手法がないかというのは、今年度検討してまいりたいと思います。

また、地元の小さなお店が今までどおり契約できるようにというのは、そこは最優先として考えていきたいというふうに考えております。

○水野あゆみ委員 102校あるので、しっかり人員確保、努めていただきたいと思えます。教育長いかがでしょうか。

○教育長 どれだけの作業量ということモデル事業の中で把握しながら、人員確保については、どうしても政策などに相談をする必要もありますので、その実績をしっかりと訴えていって、★★目指していきたいと思えます。

○水野あゆみ委員 副区長いかがでしょうか、その辺のところ。

○副区長 これまでその協議についてはいろいろと議論をされていまして、その過程、どういうふうに契約するかとか、やっと今決まってきたところですので、モデル実施の中でどれくらいの事務量が発生して、将来的に全区的に展開するのにどれくらいのコストが掛かるのか、その辺は確認をしていきたいと思えます。

○水野あゆみ委員 いろいろな課題があると思えますけれども、本当に学校の教育現場の負担軽減ということになると聞いてますので、しっかり取り組んでいただきたいと思えます。

次に、学校の個別計画のところについて伺いますけれども、7年間で26校の大規模改修計画ということで立てられていると思うのですが、先ほども陳情のところでも申し上げましたが、適正規模・適正配置というところこの大規模改修というところは連携して、この計画というのが練られたのかどうかということをお伺いしたいのですが、いかがでしょうか。

○学校施設管理課長 大規模改修につきましては、今までどおり20年周期でどの学校もやってきて

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ということで、計画は以前のものと変わってなくて、今回新しくするという改築のところでは、最新の適正規模・適正配置の現状を踏まえさせて、こちらの個別計画を改定させていただきました。

- 水野あゆみ委員 分かりました。前回のこの個別計画でも大規模改修に載ってたところがまた改築になったりだとか、様々そういう適正規模・適正配置に関わってきたので、本来であればそういったところも考えながら、連携して進めていっていただきたいなと思います。

この令和14年の大規模改修工事の計画見ると、13件の工事ということで計画が立てられているのですが、前回の実施計画を見ると、そんなにやってる年というのがなかったと思うのですが、この実効性は担保されるのでしょうか。

- 学校施設管理課長 一応、大規模改修前ですと、例えば3年の工事期間が今は4年とかという期間に伸びてきているので、どうしても重なる部分が、うちのところちょっと増えてきたのかなというところもあるのですが、こちらは、あくまでもこういった計画で、しっかりと学校の施設の安全確保というところ努めさせていただきたいと思っておりますので、しっかりとこの計画が実現できるよう取り組んでいきたいと考えてございます。

- 水野あゆみ委員 長期にわたるから重なってしまう年度がということですね。ただ、そうであっても、やっぱり働く人の人数というのは限られてくると思いますし、しっかり実効性を担保してほしいなと思います。この裏では、改築が令和14年度は予定としては3件の工事と合わせて、もしこの統合が進めばプラス三、四件ということになりますので、本当に大変な年だなというふうに思うのですが、この辺のところも、いま一度いかがでしょうか。

- 学校運営部長 今回の個別計画策定に当たっては、適正配置の部門と学校施設管理の部門、それから施設営繕部と3課で協議を重ねて、さっき、水野

委員の御懸念のとおり、事務量が特に大きくなる部分もあったりするので、そこも踏まえて計画立てさせていただきました。

確かに令和14年がかなり密になってくるのですけれども、このあたりについても、様々な手法、例えば契約の形態等も工夫する必要があるのかなあたりは施設営繕部ともお話ししているところでございますので、まずは学校の関係者の皆さんに、こういった形で大規模改修入りますよというのを、それぞれの学校にお示しをさせていただきたいというのが今回の大きなところになるかと思えます。

- 水野あゆみ委員 設計の会社もなかなか見つからなくて全然できなかったというの何校もありましたので、しっかり、その年になってできなかったのではなくて、前もって本当にやっていただけるように、この実施計画だけは守っていただけるように、私が長期で示してほしいと言っても、それは実効性がないかということでなかなか示していただけなかったのであれば、やはりこの7年間というところは実効性担保していただきたいと思います。

最後に、CSについて確認だけさせていただきたいのですが、私も現在、開かれ協議会の委員として運営に携わっていますけれども、区議会議員の皆さんにも開かれの委員というのは何人もいらっしゃるって、あとは公務員の課長や部長の中にもそういったPTA関係、開かれに関わってる方というのは多くいらっしゃると思うんですね。

その中で、今回CSというのは、会議で1回2,000円程度の謝礼というのが発生してくるのですが、これを公務員として受け取っても問題がないかどうかというのを、いま一度確認だけさせていただければと思います。

- 青少年課長 非常勤の特別職の公務員という扱いになります。兼業の申請等を出して対応していただければ受け取っていただくことは可能という認識しております。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

○水野あゆみ委員 私が以前、放課後子ども教室の実行委員であるのですけれども、やはりスタッフとしては謝礼が生じるということで、やらないほうがいいのではないかと懸念もあり、やらないところがある、謝礼は受け取っていないところはあるのですが、事務局としては、今の青少年課のような考え方でよろしいでしょうか。

○区議会事務局長 議員の皆様ということですか。

○水野あゆみ委員 公務員が。

○区議会事務局長 区の職員は、それは、青少年課長と同じ見解でございます。

○水野あゆみ委員 もらった後で駄目だったと言われると本当に困るので、言質を取らせていただきました。

今まで開かれ委員であったところが、こういったことで受け取れないからできないよというようなことがあったらマイナスになるのかなと思いましたが、そういうことがないように、是非進めていっていただきたいなと思います。

○区議会事務局長 先ほどの回答で、議員の皆様のことをもしおっしゃってる、そこも含んでいるのであれば、そこ確認させてもらいたいと思いますけれども、職員と議員で少し違いますので、確認させてもらって、また皆様にお答えさせてもらいたいと思います。

○中島こういちろう委員 私からは1点だけです。

足立区の学力定着に関する総合調査の件に関して質問いたします。

今回、CBT化をする、小学4年生以上を対象に調査をしていくというところで、私は基本的にはデジタルを活用するというのは、非常に先生の効率化につながるという観点もあるので必要なことだというふうには前提思っているのですが、ただ、確認をするタイミングが小学4年生以上というところが、やはり勉強が少しずつつまづいてくる、もしくは苦手意識を持つお子さんというのは、低学年のタイミングからも発生してくる可能

性はあるのかなど。そういう意味で、具体的な懸念事項のところにもありますけれども、単元ごとのテストで細かく確認をしていきますよというふうに記載いただいておりますが、単元ごとのテストというのは、通常今やっている試験とは何か違うものをイメージされてるのか。それか、同じものをおっしゃってるのか、どうなのでしょう。

○学力定着推進課長 この単元テストというのが、学力調査そのものは、例えば小学校3年生であれば2年生当時の、全学年のものを振り返る内容になってございます。したがって、この単元テストというのは、小学校2年生の単元ごとに学力の状況をはかって、その状況を、つまづきを確認したいと、そういった趣旨でございます。

○中島こういちろう委員 つまりは通常やっているテストの話をしてるという認識でいいということですよ、今の。

○学力定着推進課長 中島委員おっしゃるとおりでございます。できればそれ以外にも定着を図れるような、何か方法がないかというのは検討してまいりたいと思っております。

○教育指導部長 先日、教育委員会でも報告させていただいております。やはり小学校2年生、3年生の今までの区の学力調査やると、非常に正答率高いんです。ただ、高いのですけれども、この調査がなくなることで、年間のまとめがしっかりとできずに定着が積み上がっていかないと、4年生以降に大きな支障が出るということは委員からも指摘を受けておりますので、単元テストだけいいのか、また、年間でまとめのテストを、どのように代替のものを補っていくのかというのは重要な検討事項だと思っておりますので、また引き続き検討してまいります。

○中島こういちろう委員 是非よろしく願います。

今もおっしゃっていただきましたけれども、習った後にやる試験と、1年間通して最後にこの学

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

年で学んだことというのを、アウトプットするのがテストだという役割だとしたときに、しっかりとそこをちゃんと図っていく、それができるから、できないから悪いとか、いいとかという話ではなく、そこが苦手なんだとかというものをちゃんと認識してもらうことで、また次の学年に上がったときも、学びやすかったりとか、先生方も把握して指導しやすいいという観点もあると思いますので、是非、今、教育指導部長からも御答弁いただきましたので、しっかりと御対応お願いしまして、要望をお願いします。

————— ◇ —————

○石毛かずあき委員長 次に、その他に移ります。  
何かございますか。

○しづや竜一委員 1点だけ、先ほど、よっぼどのことがない限り、多分来年の文教委員になれるか分からなかったもので、これまでちょっと言わせていただきました。先ほども鹿浜委員、水野委員からも、そしてまた2人だけではなくて、全員の文教委員のメンバーも、この足立入谷小学校のことに触れさせていただいていました。

今、先ほどの答弁を聞いていても、これまでも皆さん、区の人たちが全く寄り添ってないということはないと私は思っていますし、教育長をはじめ協議会には顔を出していただいて、ただ、そのときと、やっぱりその都度変わってくる状況は本当に起こりうるのかなと。まさか、こないだ教育長が協議会を開いたときに、2年生が当初8人ぐらいいいたんですかね、そのときから2人になるとなると、先日の入学式、私とたがた議員ですかね、2人で入学式参加させていただいて、4人ですけれどもそのときは3人の入学者の子どもたちを見て、もちろん在校生の子たちもいて、12人かな、6年生の子たちがいて、そういった入学式を見たときに、やっぱりこの状況を何とか守っていかな

ければいけないと思ったと同時に、鹿浜委員が言ったように、この緊急事態をなかなかどうにかしていかなければいけない事態になってるのかなというのは、もう本当に今、もう1日1日、地域の方々とも話し合ったりとかをして感じております。

先日も、総合型地域クラブのマネジャーの会議があったんですけども、そこでも入谷地域の拠点として足立入谷小学校を使わせていただいている手前、私の方から足立入谷小学校の現状とかを伝えさせていただいた次第でございます。やっぱりこれから協議会を開くときに、皆さんに携わって、どんどんお声掛けをして、一緒に考えていきたいと思うんですけども、先日、課長からも統廃合の、ただ、中学校が優先的になってしまうとか、そういった話も踏まえて、もう話すタイミングなのかなと思っております。

地域の方々の生産緑地の話も教育長からございました。ただ、やっぱり在校生とか保護者の方々というのは、生産緑地がどうのこうのというのは、正直関係ございません。そういったぐらい本当に今危機的な状況といえますか、何で2人になったのかと考えると、やっぱり小規模だけの限界があって、6年生から中学生に上がったときに、いきなり少人数のところから大きな中学生の大人数になったときに、果たしてその学校の環境になれるかということ、そうでないから、やっぱりそういうことも聞くと、ましてや、皆さん御存じのとおり、追い打ちをかけるように、葬祭場が小学校と中学校の間に建ててしまったり、そういった現状の中で、果たして、足立入谷小学校の中で、今、地域の中で、300人ぐらいか200人ぐらいか、それぐらいの学区域の人数がいるとはいえ、これから先、舎人第一小学校、舎人小学校に流れてくるのは、これはもう当然見えていることかなと思っております。

そういったところで、最後なんですけれども、やっぱり区として、また何回も何回も同じような

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ことになってしまうのですが、やっぱり足立入谷小学校に関しては、本当に緊急的、危機的対応ということで、足立区だけではどうにもならないことかもしれませんので、東京都と、また国としっかりと話し合っていていただきたいと思うのですが、教育長、最後いかがですか。

○教育長 やはり現状が非常に厳しいのは、本当に、教育委員会の方がこれまでもっと寄り添っていきやけなかったものが、寄り添えていなかった結果がこういう状況を生んでいるのは正直間違いないというふうに思っております。なので、現状しっかりと把握させていただきながら、何ができるかは、もちろん都教委の方にも御相談させていただきたいと思っておりますけれども、まずは、学校の現場と地域の方と話し合いをしっかりとすることが大事だと思いますし、ただ、時間もなくなることなので、なるべく、今、4月の当初なので、学校忙しい時期なので、遠慮はしているのですが、4月の後半から5月に掛けて、また話し合いをしていきたいというふうに考えてございます。

○石毛かずあき委員長 他に質疑はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○石毛かずあき委員長 質疑なしと認めます。

では、私の方から申し上げますが、この委員構成で文教委員会を開催するのは、特段の事情がない限り今回が最後になると思っておりますので、一言御挨拶をさせていただきます。

本委員会の運営に当たりまして、委員の皆様や執行部の皆様、また、事務局関係者の皆様には多大なる御協力をいただきまして、本当に心から感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

また、委員会視察では、これからも記憶に残るであろう、忘れ物をしたことも大変ありまして、皆様に御注意を受けたり、様々助けていただきましたけれども、しっかりと、今日のこうしたことも、一つの私の政治活動の一旦として取り組んでいただいて、これからも頑張っていきたいなとい

うふうに思いますので、今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

それでは、副委員長からも一言いただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

まず、鹿浜副委員長、よろしくお願ひいたします。

○鹿浜昭副委員長 1年間ありがとうございました。

本当に委員会の時間も、ほかの委員会と比べると若干長かったかなというふうにも思ひます。逆に中身は濃かったというふうにも思ひます。逆には感じております。本当にこの1年、いろいろな委員からの意見をしっかりと聞いていただいて、今後の子どもたちのために、区教委の皆さんも本当にしっかりと対応していただきたい、そんな思ひでもございます。

委員長をどれだけ支えていけたかはちょっと分かりませんが、本当に1年間、大変ありがとうございました。

○石毛かずあき委員長 では、小林副委員長お願ひいたします。

○小林ともよ副委員長 1年間ありがとうございました。

私も足立区で、今も子育て中ですが、様々、本当に足立区の皆さんが御尽力いただいているということも分かりましたし、どういった仕組みになっているかというのを大変勉強させていただきました。

また次の委員会でもこの精神で頑張っていきたいと思ひますので、これからもよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

○石毛かずあき委員長 ありがとうございました。

以上で、文教委員会を閉会いたします。

午後4時14分閉会